五七七 長崎縣伺 明治十八年六月三十日

醬油ノ醡水ヲ其儘賣ルハ課稅シ醡ヘ混シ搾ルモノハ別ニ課稅セサルヤ

大藏省指令 明治十八年七月三日

醬油醡水ノ儘賣ルモノハ申出ノ通醡ヘ混スルモノハ單ニ搾リ上ケノ總石數ニ課稅スヘシ

○

五七八 福井縣伺 明治十八年六月十九日

第一條 稅則第二十一條ニ同居ノ家族雇人トアリ右雇人トハ年期ヲ定メ雇主ノ家ニアルモノヽ謂ニシテ二ケ月若クハ四ケ月間臨時ニ雇使スルモノヽ如キハ勿論含有セサル義ト心得然ルヘキ乎

第二條 自家用料ノ醬油ト雖モ本年仕込タル醡ヲ翌年或ハ翌々年製成スル者之アリ然ルニ本年ノ家族雇人ヲ合シ十人此人員ニ當テ壹石五斗ノ見込ヲ以テ製成スルモ翌年ニ至リ家族雇人ノ内二人ヲ減少シ製成スル片ハニ人分ノ石數過剩スルコト之レアリ此場合ニ於テハ如何處分シ然ルヘキ乎

大藏省指令 明治十八年六月廿九日

伺ノ趣左ノ通可相心得事

第一條 雇人トハ一ケ月以上雇主ノ家ニ於テ雇使スヘキ契約アリテ其家ニ住居スルモノニ限ル

第二條 製成石數ハ仕込ノ年度ニ拘ハラス毎年一月ノ現員ニ據リ計算スヘシ

但本年ニ限リ七月ノ現員ヲ以テスヘシ

○

五七九 滋賀縣伺 明治十八年七月十六日

醬油製造所ニ區域ニシテ甲ニハ醡醸場及搾リ器械釜場等ヲ備ヘ乙ハ單ニ醡ヲ醸成スルニ止マルモノ或ハ乙ニ釜場ナキモノヽ餘ハ甲ト同シキモノアリ甲乙區域ノ距離幾ニ公道谷川等ヲ隔ルニ過キス隨テ醡熟成ノ損耗ト費掛ノ都合等ニ依リ甲ノ醡ヲ乙ニ又ハ乙ノ醡ヲ甲ニ移轉合併シ或ハ搾リ或ハ仕込其他都合ニ依リ時々醡ヲ移轉スルモノアリ到底區域コトニ見込石高ヲ始メ醡仕込及搾リ上ケ等終始分離シ難シ右等ノ如キ止ヲ得サルモノニ限リ營業稅ハ各個ニ課スルモ見込石高其他檢査上ハ二區域ヲ壹ケ所ト視做シ取扱度相伺候也

大藏省指令 明治十八年七月廿五日

伺ノ趣聞屆候事

○

五八〇 和歌山縣伺 明治十八年七月一日

第一條 醬油製造場狹隘ナルモノ區域外ノ倉庫納屋ニ於テ仕込ヲ爲シ成熟ノ後之ヲ製造場ニ移シテ搾リ上ク右倉庫等ヲ製造場ノ附屬トナスヲ聞フモノアリ元來醬油ハ一ケ年乃至三ケ年ノ後始テ搾リ上ルヲ以テ（酒類ノ如ク速ニ成熟セス）其間時々檢査ヲナスニ於テハ姑曲ヲ施スヘカラス若シ之ヲ禁セハ營業上不便隨テ醸造石數ヲ減シ或ハ廢業スヘキモノモ之レアルヘキニ付實際止ヲ得サル分ニ限リ差許スモ妨ナキヤ

第二條 一旦御小賣ヲナシタル醬油醸又ハ苦味等ヲ生スル爲メニ買戻ヲ要スルモノアリ此場合ニ於テハ製造家又ハ仲買人他ノ精良ノ醬油及鹽水ヲ混和茨合シテ更ニ販賣ス右ハ酒類ヘ他ノ酒又ハ水ヲ混和シテ販賣スルモノト同一ニ付不問ニ措キ然ヘキヤ

大藏省指令 明治十八年七月廿二日

伺ノ趣左ノ通可相心得事

第一條 製造場二ケ所ト爲シ免許スヘシ

但二ケ所ノ免許ヲ得タル上醬味ヲ他ノ製造場ニ移シテ絞上ル妨ナシ且既ニ免許ヲ得タル二製造場ニシテ檢査上戸別ニ不便ナル者ハ更ニ申實ヲ具シ伺濟ノ上其帳簿等ヲ一括ニ爲スコトヲ得

第二條 鹽水ヲ混和スル者ハ增石數ニ就キ課稅シ其檢査未濟ノ醬油ヲ混和スル者ハ稅則第十條ニ從フヘシ

但請願者ニシテ鹽水ヲ混和販賣スルヲ得ス違ヲ者ハ稅則第二十四條ニ依ルヘシ

○

五八一 滋賀縣伺 明治十八年七月十七日(取節)

第一項 醬油未製成ノ儘密賣又ハ密ニ自用贈物等ニ供スルモノヽ罰條稅則ニ明文アラサレ𪜈稅則第八條ニ醬油ハ製成ノ後五日以内ニ管轄ニ屆出檢査ヲ受クヘシトアルニ據レハ必製成ノ上檢査ヲ受ケタル後ニアラサレハ販賣又ハ自用等ニ消費スルヲ得サルモノニシテ若シ犯ス者アルトキハ同則第二十六條ノ罰令ニ照シ告發シ然ルヘキヤ

大藏省指令 明治十八年七月廿七日

伺之趣申出ノ通可相心得事

○判決例

五八二 明治二十年乙第五百八十七號

青森縣平民 岩岡德兵衛

醬油稅則第八條ニ醬油ハ製成ノ後五日以内ニ管轄ニ屆出檢査ヲ受クヘシトアリテ已ニ第一條ニ從ヒ免許ヲ得醬油ヲ製造シテ營業スルニ於テハ其製成ノ後五日以内ニ屆出檢査ヲ受クルニアラサレハ之ヲ販賣若クハ貸渡讓渡ヲ爲シ得サル律意ナレハ假令ヒ製成以前即チ未製成ノ醪ナリトテ擅ニ贈與販賣等ヲ爲スヘカラサルハ勿論ニシテ若シ之ニ違犯シ其製成以前ト雖𪜈未檢査ノモノヲ贈與販賣スル等ノ所爲アルニ於テハ前第八條ノ違犯ニシテ同第廿六條ニ依リ科罰スヘキハ當然ナルヲ以テ已ニ原判官於ヲ諭旨ノ證據ニ心證ヲ資リ本案醬油醪ハ製成ノ上檢査ヲ受クルニアラサレハ賣捌又ハ讓渡等ヲ爲シ得サルモノナルニ擅ニ之ヲ贈與セシモノト判定シ該則第八條第二十六條ヲ適用セシハ相當ニシテ擬律ニ錯誤アルニモアラサレハ被告カ上告論旨ハ要スルニ名ヲ法律ノ誤解ニ假リ原判官カ職權ヲ以テ爲シタル採證并事實判定ノ當否ヲ非難論難シテ不服ヲ唱フルニ過キスシテ上告適法ノ原由ナキモノト

裁定ス因テ治罪法第四百廿七條ニ則リ之ヲ棄却スルモノナリ

明治二十年六月三十日

○

五八三 明治二十年乙第六百八十七號

兵庫縣平民 鳥居渭右衛門

醬油稅則ヲ按スルニ其第二十八條ニ帳簿ノ登記ヲ詐リ云々トアルハ業務上正當ニ釀造シタル醬油ヲ成規ニ依ラスシテ詐僞ノ記載ヲ爲シタル場合ヲ云フニアルヤ明カナリ今原判文ヲ查スルニ被告ハ其隱蔽シタル醬油ヲ賣捌キタルヿヲ成規ノ帳簿ニ記載セサリシハ即チ帳簿ノ登記ヲ詐リタルモノト認メタルニアリ此事實ニ依レハ別ニ一罪ヲ構造セシモノニ非ラス何トナレハ隱蔽ノ醬油ヲ成規ノ帳簿ニ記載セサルハ所謂隱蔽ノ結果ニシテ其之ヲ記載シ得可カラサルノ事柄ナレハナリ故ニ原裁判所カ稅則第二十八條ヲ當行處斷シタルハ上告第二論旨ノ如ク擬律錯誤ノ裁判ニシテ破毀ノ原由アルモノトス右ノ理由ナルニ依リ治罪法第四百二十九條ノ規定ニ則リ原裁判言渡中第三ノ擬律ヲ破毀シ本院ニ於テ直ニ裁判スルヿ左ノ如シ

原裁判所カ認メタル事實ニ依ルニ被告カ第三ノ所爲ハ前ニ說明セシ如ク法律上罪トシ罰ス可キモノニ非サルヲ以テ治罪法第三百五十八條ニ依リ無罪

明治二十年八月四日

○

五八四 明治二十一年乙第百五十四號

千葉縣平民 松川德次郎

醬油稅則第十四條ニ醬油製造用ノ器具ハ使用以前管轄ニ屆出檢査ヲ受クヘシトアリテ專ラ密器ヲ檢査ヲ爲スノ目的ヲ以テ設ケタル法律ナレハ單ニ密器ノ個數ヲ屆出タリトテ未檢査ノ儘該密器ヲ使用スルニ於テハ第十四條ノ違

犯者タルヲ免レサルハ勿論其屆出ト撿査トハ只タ同條ニ要スル二個ノ手續ニシテ之ヲ二所爲ニ區別シ論斷スヘキモノニアラス今本案上告言趣タル前顯ノ如クニシテ原判官於テ屆出ト撿査トヲ二所爲トナシ被告カ無號桶二本ヲ無屆ニテ使用セリトノ事柄ハ證憑充分ナラス云々ト判示シ無罪ヲ言渡セシハ其當ヲ得スト雖モ之レカ爲メニ被告ニ不利ヲ及ホシタルニアラサレハ到底破棄ノ必要ヲ見ス然リ而テ該二本ノ桶タル其容量ノ撿査ヲ受ケス未製成ノ醤油ヲ容レ置キシ點ニ就テハ原判官カ諸般ノ證據憑據ニ據リ事實ヲ判定シアリテ即チ此事實ノ所爲ニ對シ稅則第十四條第二十八條ニ依照シ處斷シタルハ至當ノ裁判ニシテ越權若クハ擬律ニ錯誤アル等ノ處分ナキモノトス

明治二十一年三月三十一日

◎セノ部

(九二)西洋形日本船各開港場出入規則 明治八年十一月第百六十三號布告

明治七年十一月第百二十三號布告國內回漕規則來ル十二月一日ヨリ當分停止シ西洋形日本船各開港場出入規則別紙ノ通相定右同日ヨリ施行候條此旨布告候事

(別紙)

西洋形日本船各開港場出入規則

第一條 凡ソ西洋形日本船ハ蒸瀛風帆ノ別ナク横濱神戸大坂長崎箱館新潟ノ六港ニ入津スルトキハ其投錨時刻ヨリ十二時間ニ第一號書式ノ通リ其港稅關ヘ屆出ヘキ事

但シ風潮ノ不順等ニ因リ一時無餘儀入港シ十二時間ニ出港スルモノハ屆書ヲ出スニ及ハス

第二條 貨物ノ積卸ハ其港稅關ノ免許ヲ受ケタル後チニアラサレハ一切相成ラサル事

第九二ノ二、三、四、五條參看

第九二ノ一條參看

第三條 輸入稅未納ノ外國貨物及ヒ貨主外國人ニテ輸出稅未納ノ內國貨物回漕ノ儀ハ本年第二十號布告ニ照ラシ夫々手數致スヘキ事

第四條 出港セントスルトキハ必ラス二時前マテニ第二號書式ノ通リ稅關ニ屆出ヘキ事

第五條 出入港ノ屆ヲ等閑ニスル者ハ左ノ通リ科料申付クヘキ事(九年第二十九號布告ヲ以テ各項共改正)

蒸汽船 三百噸マテ金五圓

三百噸以上三百噸每ニ五圓ヲ加フ

風帆船 三百噸マテ金三圓

三百噸以上三百噸每ニ三圓ヲ加フ

(書式略之)

○

(九三)西洋形船水先免狀規則 明治十一年十二月第三十七號布告

明治九年十二月第百五十四號布告西洋形船水先免狀規則別冊ノ通改正候條此旨布告候事

(別冊)

西洋形船水先免狀規則

第一條 明治十二年一月一日ヨリ以後下ニ記載スル海港即チ水先區ニ於テ西洋形船舶ノ水先人ト爲リ營業スル者及ヒ西洋形船舶ノ水先船トシテ使用スル諸船ヘハ此規則ニ從テ發行スル免狀ヲ交付スヘシ

第二條 水先ノ事業ニ關係シタル諸般ノ事務ハ農商務省(明治十四年九月十三日第四十三號布告ヲ以テ內務省ヲ農商務省ト改

第九二ノ一、三五條參看

第九二ノ二、四條參看

第九三ノ二、三、四、五、六、七、八、九、一〇、一八、二一、二二、二三條參看

第九三ノ一、五、六、七、一一、二

正ス故ニ今其改正布告ニ從フ以下倣之）ノ統轄ニ屬シ同省ニ於テハ充分其筋ニ明ナル者ヲ撰ミ此規則ニ準據シテ各試驗出願人ヲ試驗スヘシ

第二條　免狀ハ左ニ記載ノ海港即チ水先區ニ於ケル水先人ニ交付シ且現況ニ從テ其他ノ地方ニ於ケル水先人ニ交付スヘシ

第一　東京灣

即チ伊豆國石廊岬ヨリ同國神子本島及ヒ大島波浮港ヲ通過シテ安房國野島岬ニ至ル一線ヲ以テ驅界線トス

第二　和泉灘

即チ紀伊國宮岬ヨリ淡路國潮崎ノ仁頃ニ至ル一線ヲ以テ其南海ヲ畫シ北ハ淡路國極北ノ部ニ於ケル東經百三十五度ノ所ニ於テ畫シタル一線ヲ以テ驅界線トス

第三　和泉灘ヨリ瀬戸内ヲ通過シテ長崎迄

第四　長崎港

即チ肥前國福田村ヨリ同國伊王島ノ極北ヲ通過シ同國沖島及ヒ香燒島ヲ經テ同國深堀ニ至ル一線ヲ以テ驅界線トス

第五　津輕海峽

即チ陸奥國尻矢崎ヨリ渡島國惠山崎ニ至ル一線ヲ以テ其東界ヲ畫シ陸奥國大間村ヨリ同國龍飛崎ニ至ル一線ヲ以テ其南界ヲ畫シ同國龍飛崎ヨリ渡島國白神崎ニ至ル一線ヲ以テ其西界トス

第四條　各海港即チ水先區内ニ供備スヘキ免許水先人ノ員數ハ其海港即チ水先區ノ現況ニ從フヘシ

第五條　水先人ノ免狀ヲ出願スル者ハ自己ノ技業及ヒ性質殊ニ平素ノ行狀ニ係リ確實ナル履歷證書ヲ豫テ其本貫又ハ寄留地ノ地方官廳ヲ經テ農商務省ヘ差出シ置キ或ハ試驗開場ノ時ニ於テハ直チニ司驗官ヘ差出スヘシ

第六條　水先人タル者ハ年齡二十二歳ニ滿チ少クモ一ケ年間ハ一百噸以上ノ西洋形船ニ於テ船長若クハ一等運轉手ノ職ヲ執リシ者若クハ六ケ年間航海ニ從事シ其中一ケ年間ハ自今營業免許ヲ受ケントスル水先區内ニ於テ既ニ水先見習人ト爲リ航海ニ從事セルモノニ限ルヘシ但シ其水先區内ニ在ル諸港灣海峽及ヒ碇泊場ハ勿論危險ノ場所及ヒ之ヲ避ルタメノ重立タル記標或ハ方位又ハ潮ノ滿干潮流燈光浮標礁標ノ位置ニ悉皆通曉シ且大船ヲ指揮シテ之ヲ運轉スルニ充分適當セリト司驗官ヲ滿足セシムルヿヲ要スヘシ

第七條　受驗人試驗ヲ受ケ正シク須要ノ條件ニ叶ヒタルト司驗官之ヲ認ムルトキハ其旨ヲ農商務省ニ報告シテ直チニ免狀ヲ交付スヘシ但シ此免狀ハ翌年一月一日以後ハ全ク其効力ヲ有セサルモノトス

第八條　免狀ノ書替ヲ請願セントスル者ハ毎年十一月一日以前其願書ヲ農商務省ヘ差出スヘシ但シ之ヲ許可シ或ハ許可セサルトハ都テ農商務省ノ意見ニ因ルヘシ

第九條　免狀ヲ遺失スルモノ又ハ摩損スルモノハ其事由ヲ記シタル願書ヲ農商務省ヘ差出

シ書替新免狀ヲ申請クヘシ

第十條　水先人ハ始メテ其免狀ヲ願受ルトキ金拾圓又其書替毎ニ金壹圓ノ手數料ヲ上納スヘシ

第十一條　水先人ノ試驗ヲ爲ストキハ定日ヨリ少クモ十四日前其旨ヲ和洋兩種ノ新聞紙ヲ以テ公告スヘシ此公告ニハ其免許ヲ與フヘキ人數ノ限リ及ヒ試驗ノ場所月日ヲモ記載スヘシ

第十二條　試驗出願人ノ履歷證書ヲ以テ充分滿足ノモノト爲ルトキハ其出願ノ順次ヲ以テ其姓名ヲ登簿シ登簿ノ順次ニ從テ之カ試驗ヲ爲スヘシ

第十三條　此規則ニ從テ水先免狀ヲ受ケタル外國人ハ其執業上ニ限リ日本帝國內何レノ海岸ト雖モ上陸シ且又其出發地ヘ陸路歸ルヲ得ルノ特許ヲ與フヘシ

第十四條　第三條ニ規定セル水先區內ニ於テ無免許ノ水先人船舶ヲ嚮導スルトキ免許水先人ヨリ其船舶ノ嚮導ヲ爲サント申入レ又ハ其爲メ信號ヲ爲ストキハ何時ニテモ免許水先人ヘ其職ヲ讓ルヘシ其職ヲ讓ルヲ拒ミ仍ホ其船舶ヲ嚮導シ或ハ免許水先人ト詐稱シ正當ナラサル免狀ヲ用ユル者ハ五十圓以內ノ罰金ヲ科スヘシ

第十五條　水先料ハ別表ニ記ス金高ニ超過スヘカラス但シ表中記載セサルモノハ其距離ノ遠近ニ隨テ船長ト水先人ノ間ニ相當ノ約束ヲ以テ定ムヘシ

第十六條　二人以上ノ免許水先人同時ニ於テ船舶ノ嚮導ヲ申入レ又ハ其信號ヲ爲ストキハ最初現ニ乘船シタル者其嚮導ヲ爲シ其水先料ヲ收領シ得ヘシ

第十七條　免許水先人水路嚮導專用ノ水先船ハ第十九條第一節第二節ニ示セル式ノ如ク之ヲ製シ其免狀ヲ農商務省ニ願出ツヘシ農商務省ハ檢査ノ上其免狀ヲ與フヘシ但シ此免狀ハ水先人免狀同樣其効一ケ年ニ限ル者トシ年々其書替ヲ願出ツヘシ

第十八條　各免許水先船ハ免許ヲ得タル區域內ニ於テ其水路嚮導用ノ爲メニハ港灣稅噸稅燈臺稅等ノ諸稅ヲ免スヘシ

第十九條　各水先船ハ左ノ徵候ヲ以テ區別スヘシ

第一　水先船ノ外部ハ總テ黑色タルヘシ

第二　船尾及ヒ大帆ノ上部ニ於テ國字及ヒ羅馬字ニテ免許水先船ノ文字並ニ其番號ヲ明瞭ニ書スヘシ

第三　免許水先船ニ免許水先人ノ乘込アルトキハ桅上或ハ船首或ハ旗竿若クハ他ノ認メ易キ場所ニ於テ日出ヨリ日沒マテ水先旗ヲ飜揚スヘシ但シ水先旗ハ明治十年一月甲第一號海軍省布達ニ照準スヘシ

第四　水先船其營業場ニ於テ水路嚮導ニ從事スルトキハ他船ニ用フル燈火ヲ揭ケス只檣頭ニ於テ周回諸方ヨリ見ユヘキ白燈一個ヲ揭ケ且十五分時ヲ超エサル間歇ヲ以テ閃光一個又ハ數個ヲ發スヘシ水先船其營業場ニ於テ水路嚮導ニ從事セサルトキハ他船ト同樣ノ燈火ヲ揭クヘシ（明治十三年九月第三十九號布告ヲ以テ水項改正）

第二十條　日中ニ於テ左ニ記載スル信號ヲ表示スルトキハ水先ヲ要求スルノ信號ト認ムヘシ

第一　前檣ニ於テ其船ノ船首旗英國ジヤック又ハ國旗ヲ揭揚スル事

第二　萬國普通ノ水先信號ノ符PTノ符字ヲ掲示スル事
夜間ニ於テ左ノ信號ヲ同時若クハ別ニ表示スルトキハ水先ヲ要求スルノ信號ト認ムヘシ
第一　十五分時毎ニ青燈ヲ掲出スル事
第二　須臾ノ間歇ヲ以テ凡ソ一分時ノ間透明ナル白燈ヲ上甲板ノ舷部ニ於テ射發スル事

（明治十九年第三ノ一條參看）

第二十一條　各免許水先人ヘハ其免狀ハ勿論此規則ノ寫ヲ一通ツヽ交付スヘシ故ニ其筋ノ官吏又ハ雇主ヨリ其書類ノ閲覽ヲ要スルトキハ直ニ之ヲ示スヘシ若シ之ヲ拒ムトキハ農商務省ニ於テ其執業ヲ停止シ或ハ其免狀ヲ取上クヘシ

（明治十九年第三ノ一、七、二三條參看）

第二十二條　此免狀ハ他人ニ貸與シ或ハ讓與スヘカラス若シ貸與シ或ハ讓與スルトキハ農商務省ニ於テ其免狀ヲ取上クヘシ

（明治十九年第三ノ一、七、二三條參看）

第二十三條　農商務省ニ於テ免許水先人其本分ノ職務ニ堪ヘサルカ若クハ亂醉又ハ不行跡アルカ或ハ故ナクシテ其職務ヲ執ルヿヲ嫌ヒ若クハ之レヲ怠リタルヿアリト思惟スルトキハ同省ヨリ吏員ニ命シテ之レヲ審問セシメ其情狀ニ隨ヒ其執業ヲ停止シ或ハ其免狀ヲ取上クヘシ（水先料一覽表畧之）

○

（九四）西洋形船海員雇入雇止規則　明治十二年二月第九號布告

西洋形船海員雇入雇止規則別冊之通相定來ル八月十六日ヨリ施行候條此旨布告候事（明治十三年第十號布告ヲ以テ西洋形船ヲ西洋形船ト改ム以下倣之）

（別冊）

西洋形船海員雇入雇止規則

第一條　西洋形船（蒸氣船ハ拾噸以上風帆船ハ廿噸以上）ニ於テ海員ヲ雇入又ハ雇止ヲ爲ス時ハ總テ此規則ノ條款ニ準據スヘシ

（明治十五年第五八、五九、六九、一〇、一一、一二、一三、一四、一五條參看）

第二條　雇入ノ時ハ其地ニ於ケル浦役場ニ於テ農商務省ヨリ發スル海員雇入證書用紙ヲ以テ其定約書ヲ作リ雇者被雇者記名調印ノ上浦役人ノ公認ヲ受クヘシ（明治十四年第四十三號布告ヲ以テ內務省ヲ農商務省ト改ム以下倣之）

但シ定約書ハ正副貳通ニ作リ其本書ハ本船ニ保チ置キ副書ハ浦役場ニ止メ置クヘシ

（明治十九年第九四ノ二、六、七、二三條參看）

第三條　內海回漕船ニ於テハ雇入期限ヲ六ケ月以內ト定ム然レトモ外國航船ニ於テハ六ケ月以外ヲ約スルヲ得ヘシ

（明治十五年第五八、五九、六〇、一一、一二、一三、一四、一五條參看）

第四條　雇止ノ時雇者ハ其地ニ於ケル浦役場ニ於テ農商務省ヨリ發スル海員雇止證書用紙ヲ以テ雇止證書ヲ作リ記名調印ノ上浦役人ノ公認ヲ受ケ之ヲ其被雇者ニ付與スヘシ
雇入又ハ雇止ノトキ技術免狀ヲ所持スルモノハ浦役人ノ檢査ニ供シ且其檢査證書ヲ申受ヘシ

（明治十九年第九四ノ二、六、七、二三條參看）

雇入又ハ雇止ノ公認ヲ受クルトキハ手數料トシテ被雇者給金一月分ノ百分一ニ當ル金額ヲ雇者被雇者ヨリ各其半額ツヽ浦役場ニ納ムヘシ

（明治十五年第五八、五九、六〇、一一、一二、一三、一四、一五條參看）

雇入定約書及ヒ雇止證書ヲ亡失毀損シ其寫ヲ乞フ者ハ貳名以上ノ保證人ト連署シテ當初公認ヲ受ケタル浦役場ニ申出ヘシ浦役人ハ簿冊ニヨリ之ヲ製シ認印ヲ捺シテ交付ス可シ（明治十六年十二月第四十五號布告ヲ以テ本條第二項以下第四項マヲ追加明治十七年七月一日ヨリ施行ス）

第五條　雇止ハ雇入地ニ限リ行フヘシ故ニ雇入地外ニ於テ滿期ニ至ルモ雇入地ニ歸着スル迄ハ雇入期限內ト看做スヿヲ得ヘシ

但シ雇者被雇者雙方ノ協意ヲ以テスルモノハ本條ノ限リニアラス

第六條　左ノ場合ニ於テハ雇入地外ト雇入期限內トニ拘ハラス雇者ヨリ雇止ヲ爲スヿヲ得ヘシ

一疾病又ハ體質瘦弱ノ故ヲ以テ本務ヲ執行シ能ハサル者

一本船難破其他ノ災厄ニ罹リ進航シ能ハサル時

但以上二項ノ場合ニ於テハ雇者ノ費用ヲ以テ雇入地ヘ歸還セシムヘシ

一第十條ニ掲クル違約一ヶ月內三回以上ニ至ル者

一第十一條ヲ犯ス者

第七條　又左ノ場合ニ於テハ雇入地外ト雇入期限內トニ拘ハラス被雇者ヨリ其定約ヲ解クヲ得ヘシ

一苛虐ノ取扱ヲ受ケシ時

一飲食物又ハ給金ノ全額或ハ幾分ヲ給與セラレサル時

但シ右ノ場合ニ於テハ雇入地ヘ歸着ノ旅費ヲ請求スルヲ得ヘシ

第八條　外國ニ於テ雇入若クハ雇止ヲ爲ストキハ其國駐留ノ我國領事館ニ於テ農商務省ヨリ發スル用紙ヲ以テ定約書若クハ雇止證書ヲ作リ記名調印ノ上領事ノ公認ヲ受クヘシ

但シ定約書ハ正副二通ニ作リ其本書ハ本船ニ保チ置キ副書ハ領事館ニ止メ置クヘシ

（五八五ノ七、八條、九四ノ二、四、六、七、八、一三條參看）

（五八一、一三條、九四ノ三、五、七、八、一三條參看）

（五八五ノ七、八、一三條、九四ノ三、五、六、八、一三條參看）

（五八五ノ七、八條、九四ノ一、二、四、五、六、七、九、一三條參看）

第九條　漸タニ海員トナル者及ヒ此規則施行以前雇止ト爲リシ者ヲ除クノ外被雇者ハ必ス最後ノ雇止證書ヲ所持スヘシ又雇者ハ最後ノ雇止證書ヲ所持セサル者ヲ雇入ス可カラス

第十條　船長ノ指圖ニ背ク者許可ヲ得スシテ上陸シ又ハ許可ノ時限ヲ過キテ歸船スル者（第十一條ノ脫船者ニアラス）本務ヲ怠ル者喧嘩口論ヲ爲ス者酩酊スル者私ニ銃器刀鎗或ハ酒類ヲ船中ニ貯フ者ハ每回其給金三日分ヨリ多カラサル額ヲ違約金トシテ雇主之ヲ收メ且ツ其銃器刀鎗或ハ酒類ヲ取上ルヲ得ヘシ

第十一條　船中ニ於テ徒黨ヲ謀ル者船長ヲ劫ス者脫船スル者（雇入期限內ニ逃亡スル者ヲ云フ）ハ其事情ニ因リ百日以內ノ懲役ニ處ス若シ船體船具ヲ毀傷シ又ハ戴貨ヲ私用スル者ハ其實價ヲ償ハシムルノ外本條ニ依テ其罪ヲ科スヘシ

第十二條　海員ヲ虐使シ飲食物或ハ給金ノ全額又ハ幾分ヲ給與セサル者ハ其事情ニ因リ百圓以內ノ罰金ヲ科シ其給與セサル金額ハ年六分ノ利子ヲ加ヘ償還セシムヘシ

第十三條　此規則中第十條第十一條第十二條ヲ除キ其他ノ諸條款ヲ犯ス者ハ其事情ニ因リ五拾圓以內ノ罰金ヲ科スヘシ

（九四ノ二、四、八、一三條參看）

（九四ノ二、六、一三條參看）

（一ノ一、五、六條、九四ノ一、六、一三條參看）

（一ノ三、五條、九四ノ一、二、三條參看）

（一ノ三、五條、九四ノ二、三、四、五、六、七、八條參看）

●參照

○關係法令

[五八五] 農商務省第九號達　明治十七年三月

客歲十二月第四十五號布告ヲ以テ明治十二年第九號布告西洋形船海員雇入雇止規則

第四條ヘ第三項追加相成候ニ就テハ右事務取扱手續左ノ通相定候條此旨相達候事

海員雇入雇止事務取扱手續

第一條　雇入ノ公認ヲ與ルニ際シ浦役人ハ左項ニ注意スヘシ

第一　船長、運轉手、機關手、技術免狀ノ有無ヲ檢問スル事

第二　被雇者ニ於テ最後ノ雇止證書ヲ所持スルヤ否ヲ推問スル事

第三　被雇者ヲシテ雇入定約ノ旨趣ヲ了解シタルヤ否ヲ推問スル事

第二條　浦役人ハ船長、運轉手、機關手、技術免狀ヲ檢査シ眞正ノモノト認ムルトキハ農商務省ヨリ發行シタル技術免狀檢査證書ニ該免狀ノ種類及船名、定繫港名等ヲ記シ之ヲ交付スヘシ

第三條　浦役人ハ被雇者ヨリ最後雇止證書ヲ出サシメ其證書裏面ヘ何年月日何港ニ於テ更ニ何船ヘ雇入トナリタル旨ヲ記入シ且之レニ認印スヘシ但新ニ海員トナリ最後雇止證書所持セサルモノハ此限ニアラス

第四條　被雇者中定約ノ旨趣ヲ了解セサルモノアレハ浦役人ニ於テ或ハ之ヲ讀聞セ或ハ解釋シテ充分了解セシムヘシ

第五條　新タニ海員トナル者ニ雇入ノ公認ヲ與ヘタルトキハ其族籍氏名年齢ヲ本籍ノ戶長ニ照會シ從前海軍兵役ノ有無ヲ取調ヘ雇入證書ノ寫若クハ海員名簿ニ記入スヘシ（明治十七年第二十五號農商務省達ヲ以テ追加）

第六條　雇入ノトキハ勿論雇止ノトキト雖モ其證書ノ寫ヲ浦役場ニ保存スヘシ且雇入雇止事務繁劇ノ場所ニ於テハ更ニ海員名簿ヲ備置雇者被雇者ノ住所、氏名、乘組船名等ヲ記入シ他日ノ參照ニ供スヘシ（十七年第二十五號農商務省達ヲ以テ舊第五條ヲ第六條トナシ以下順次繰下ク）

第七條　雇止ノ公認ヲ爲ストキハ前定約面ト相違ノ廉有之トキハ船內日記簿其他ノ書類ニ據リ雇者ヨリ其事實ヲ證明セシメ海員名簿ニ其旨ヲ記入シ而シテ之カ公認ヲ與フヘシ

第八條　甲地浦役場ニ於テ雇入ノ公認ヲナシタルモノヲ乙地浦役場ニ於テ雇止ノ公認ヲ爲シタル時ハ郵便其他便宜ノ方法ヲ以テ甲地浦役場ヘ遲クモ一ケ月以內ニ之ヲ通報スヘシ此場合ニ於テハ甲乙兩浦役場ニ於テハ其雇入證書ノ寫若クハ海員名簿ニ其事由ヲ記入スヘシ

第九條　雇入雇止證書中被雇者年齢ハ必ス生年月日ヲ記入セシムヘシ

第十條　雇入雇止證書中書損アルトキハ必ス正誤セシメ浦役人之ニ認印スヘシ若シ書損甚シク文句不分明ナルトキハ更ニ新調セシムヘシ

第十一條　雇入期限中脫船又ハ死者アリシ事ヲ屆出タル時ハ雇入證書中事故摘要ノ部ヘ其事故ヲ記載シ尙ホ其證書ノ寫若クハ海員名簿ニ之ヲ記入スヘシ

第十二條　雇入證書ハ假令ヒ餘白アリト雖モ再度之レヲ使用スルヲ許サス故ニ其餘白ハ總テ斜線ヲ畫スヘシ

第十三條　雇入期限內雇者被雇者ヨリ雇止ノ公認ヲ請フモノアル時ハ規則ニ照シテ其事由ヲ查明シ之カ公認ヲ與フヘシ但シ正副雇入證書及ヒ海員名簿ニ其事由ヲ記

入スヘシ

第十四條　雇入期限内ニ雇者變更スト雖モ更ニ雇入定約ヲ爲サシムルニ及ハス然レ已此場合ニ於テハ滿期雇止ノ日雇者變更ノ事由ヲ正副雇入證書若クハ海員名簿ニ記入スヘシ

第十五條　海技免狀ヲ受有スル者ハ海員雇入雇止證書職務欄内ニ免狀ノ種類及現ニ服務ノ職名ヲ記シテ公認ヲ與フヘシ（明治十八年三月農商務省第七號達ヲ以テ本條追加）

（九五）船燈製造取締　明治十四年五月第三十四號布告

明治十三年七月第三十五號布告海上衝突豫防規則ニ記載シタル檣燈及舷燈ハ農商務省ノ許可ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ製造スルコトヲ得ス犯ス者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス

○

（九六）西洋形船々長運轉手機關手免狀規則　明治十四年十二月第七十五號布告

西洋形船々長運轉手機關手免狀規則別冊之通改定來十五年一月一日ヨリ施行シ九年六月第八十二號同年六月第九十四號同年十二月第百五十三號同年十二月第百五十七號十三年十二月第五十八號十四年二月第十三號同年三月第十八號布告ハ同日ヨリ都テ之ヲ廢止ス

（別冊）

西洋形船々長運轉手機關手免狀規則

此規則ハ海軍諸艦ニ關セサルモノトス

此規則中内國航船ト稱スルハ支那朝鮮ノ間ニ於ケル鴨綠江ヨリ露領黑龍江ニ至ルノ沿岸及ヒ蘆戚嗹諸港ニ航スルモノモ亦包含ス

第一條　船長、運轉手、機關手ノ職ヲ執ル者ハ此規則ニ遵ヒ其職ニ應スル等級ノ免狀ヲ農商務卿ヨリ受ケ之ヲ所持スヘシ

第二條　免狀ハ甲乙及ヒ小形船機關手ノ三種トナシ又甲乙ノ兩種トモ船長、一等運轉手、二等運轉手、一等機關手、二等機關手ノ五ニ分チ各々試驗規程ニ從ヒ及第セシ者ニ授與スヘシ

第三條　試驗ノ規程ハ第一號布達ニ據ルヘシ

第四條　高等ノ免狀ハ下等ノ免狀ニ代用スルヲ得下等ノ免狀ハ高等ノ免狀ニ代用スルヲ得ス

甲種船長ノ免狀ハ乙種船長ノ免狀ニ對シ高等ノ効力ヲ有シ運轉手、機關手ノ免狀ニ於ケルモ亦同シ

乙種二等運轉手ノ免狀ハ從前ノ小形船々長ノ免狀ニ對シ高等ノ効力ヲ有シ乙種二等機關手免狀ノ小形船機關手免狀ニ於ケルモ亦同シ

第五條　從前授與シタル本免狀ハ甲種免狀ト同一ノ効力ヲ有シ又假免狀ハ當分ノ内乙種免狀ニ代用スルヲ得

從前授與シタル小形船々長ノ免狀ハ其効力ヲ存シ又從前ノ小形船機關手ノ免狀ハ當分ノ内本則ノ小形船機關手免狀ニ代用スルヲ得

第六條　免狀ノ書換又ハ再授ヲ請フトキハ手數料金一圓ヲ納ムヘシ但再授ヲ請フ者ハ二名以上ノ證人ヲ要ス

第七條　免狀ハ其筋吏員ノ指圖ニ應シ何時タリトモ其檢査ヲ受クヘシ

第八條　甲種免狀試驗課程ニ合格スト認メタル外國政府ノ本免狀ヲ所持セル船長、運轉手、機關手ハ更ニ試驗ヲ要セス原免狀同等ノ免狀ヲ授與スヘシ

第九條　左ノ三項ニ記載スル各船ハ其所用ノ區別及ヒ登簿噸數及稱馬力ノ限度ニ從ヒ應等若クハ高等ノ免狀ヲ受有スル職員ヲ乘組マシムヘシ

第一項

三百噸未滿	外國航船	甲種免狀船長	一名以上
同	同	一等運轉手	同
三百噸以上	同	甲種免狀船長	同
同	同	一等運轉手	同
同	同	二等運轉手	同
一百馬力未滿	同	同	一等機關手
一百馬力以上	同	同	一等機關手
同	同	同	二等機關手

第二項

一百噸以上	內國航船	乙種免狀船長	同
三百噸未滿	同	一等運轉手	同
三百噸以上	同	船長	同
五百噸未滿	同	一等運轉手	同
同	同	二等運轉手	同
五百噸以上	同	甲種免狀船長	同
同	同	一等運轉手	同
同	同	二等運轉手	同
二十馬力以上	同	乙種免狀二等機關手	同
五十馬力未滿	同	乙種免狀一等機關手	同
五十馬力以上	同	若クハ甲種免狀二等機關手	同
一百馬力未滿	同	甲種免狀一等機關手	同
一百馬力以上	同	二等機關手	同

第三項

二十噸以上（海船ハ十噸）以上　同　乙種免狀二等運轉手

一百噸未滿　若クハ從前ノ小形船々長　同

二十馬力未滿　同　小形船機關手　同

二十馬力未滿（港內若クハ湖川用）　小形船機關手　同

（廿九ノ一、二、三、二四條參看）

但二十馬力以上ノモノハ第二項ニ準ヒ機關手ヲ乘組マシムヘシ

前記各項ニ從ヒ應等若クハ高等ノ免狀ヲ受有セス或ハ禁止停止ニ係リ受有シ能ハスシテ其職ヲ執リ出航スル者及ヒ之ヲシテ其職ヲ執ラシメ又ハ其職員ヲ減シテ出航シセシム

第十條　農商務卿ハ船長、運轉手、機關手ノ技術、劣等ニシテ其職ヲ執ルニ不適當ナリト考察スルトキ又ハ左ニ掲クル事項ニ於テハ其筋吏員ヲシテ之ヲ審問セシメ其免狀ノ使用ヲ停止シ或ハ禁止スルコトアルヘシ

第一　亂醉、粗暴、其他ノ不品行若クハ指揮ニ悖戻シ又ハ職務ニ怠ル者

第二　失錯又ハ不當ノ所爲ニ由テ船ヲ失ヒ或ハ棄テ或ハ之ニ大損害ヲ生シ又ハ人命ヲ害ヒ或ハ大傷痍ヲ被ラシメタル者

（廿九ノ一〇條刑法第一〇〇條參看）

（廿九六ノ一條參看）

（廿九六ノ二、二〇條參看）

（廿五八六、廿九七ノ二、三、四、五、六、七、八、二、三、二、四、一、六、一、八條參看）

（廿九七ノ一、四、八、一〇、二、一、二、二五條參看）

第三　輕罪以上ノ刑ニ處セラレタル者

第十一條　前條審問中檢察官又ハ被害者ヨリ裁判所ニ出訴スルトキハ農商務卿其審問ヲ中止シ裁判確定ヲ待テ之ヲ處分スヘシ

第十二條　免狀ノ使用ヲ停止シ或ハ禁止スルトキハ農商務卿其免狀ヲ取揚クヘシ若シ之ヲ拒ムモノハ貳圓以上二百五拾圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

但第九條末項ノ罪ト俱ニ發スルトキハ罰金ヲ並ヒ科スヘシ

第十三條　免狀使用ノ停止或ハ禁止ノ處分ニ服セサルモノハ其筋ヘ上訴スルヿヲ得ヘシ

第十四條　免狀ノ使用ヲ禁止シタル者ト雖モ一ケ年ノ後ニ至リ農商務卿ノ考察ヲ以テ更ニ相當ノ免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

○

（九七）請願規則　明治十五年十二月第五十八號布告

請願規則左ノ通制定ス

請願規則

第一條　人民各自ノ利害ニ關シ行政上ノ處分ヲ請願セントスル者ハ左ノ條規ニ依ルヘシ

第二條　郡區長及ヒ戶長職務內ノ事件ハ郡區長戶長ニ請願スヘシ郡區長戶長ノ指令ニ服セサル者ハ府知事縣令ニ請願シ府知事縣令ノ指令ニ服セサル者ハ主務卿ニ請願シ主務卿ノ指令ニ服セサル者ハ太政官ニ請願スルヿヲ得

府知事縣令警視總監職務內ノ事件ハ府知事縣令警視總監ニ請願スヘシ府知事縣令警視總

監ノ指令ニ服セサル者ハ主務卿ニ請願シ主務卿ノ指令ニ服セサル者ハ太政官ニ請願スルヿヲ得

各省卿職務内ノ事件ハ其卿ニ請願スヘシ其指令ニ服セサル者ハ太政官ニ請願スルヿヲ得

第三條　凡ソ請願スル者ハ書面ヲ以テスヘシ口陳スルコトヲ許サス官署ノ求メニ應シテ開陳スルハ此限ニ在ラス

第四條　請願書ハ請願人自ラ署名捺印シ族籍住所ヲ記シ戸長ニ請願スル者ヲ除クノ外住所戸長ノ奥印ヲ受クヘシ其連名ヲ以テ請願スルモノハ各人自ヲ署名捺印シ族籍住所ヲ記シ其總代又ハ請願發起人アルトキハ其由ヲ肩書スヘシ戸長ノ奥印ヲ受ルハ前ノ例ニ同シ

第五條　府縣郡區總代又ハ結社總代ノ名ヲ以テ請願スルコトヲ得ス

但成法ニ制定セラレタル會社ハ此限ニ在ラス

第六條　請願書ヲ上呈スルニハ代人ヲ以テスルヿヲ許サス數人連名スル者ハ請願人中ニ於テ三名以下ノ總代人ヲ撰ヒ之ニ委托スヘシ

第七條　請願書ハ郵便ヲ以テ上呈スルコトヲ得

第八條　上司ニ呈スル請願書ニハ其經歷スル所ノ官署ノ指令書ヲ添フヘシ

第九條　請願書ノ郵達ヲ得タル各省若シ其主務ニ非サルトキハ直ニ之ヲ主務省ニ移シ其由ヲ請願人ニ通知スヘシ

第十條　太政官ニ於テ請願ヲ裁可スルトキハ主務省ニ付シテ處分セシムヘシ

第十一條　太政官ノ裁令ヲ經タル者ハ更ニ請願スルヿヲ得ス又裁判所ニ訴フルコトヲ得ス

（廢九七ノ一四、六七ノ一五、一八條參看）
（明五八七廢九七ノ一二、三、五、七ノ一五條參看）
（廢九七ノ一四、六七ノ一五條參看）
（廢九七ノ一三、五七ノ一五條參看）
（廢九七ノ一三、四五六九ノ一。條參看）
（廢九七ノ一三、一五條參看）
（廢九七ノ一二。條參看）
（廢九七ノ二七、九一一條參看）
（廢九七ノ二二、一五條參看）

第十二條　請願ヲ名トシテ行政處分ヲ拒ムコトヲ得ス

第十三條　凡ソ事ノ建白ニ屬スヘキ者ハ人民各自ノ利害ニ係ルヲ以テ請願スト雖モ受理セス

第十四條　行政處分ノ既ニ五年ヲ經タル者ハ請願ヲ受理セス

第十五條　請願人第二條ノ順序ヲ經ス及ヒ第三條第四條第五條第六條第八條第十一條ノ規程ニ循ハサル者ハ受理セス

第十六條　請願書ニ侮辱誹毀ノ語ヲ用ヒ及ヒ第二條ニ示ス所ノ官署ノ外ニ向ヒ請願スル者ハ受理セス

第十七條　條規ニ違ヒ受理セラレサルノ請願ヲ以テ强テ受理ヲ請フ者ハ十一日以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス其連名請願スル者ハ情ヲ知ラサル者ヲ除ク外各人均ク罪ヲ論ス其發起人ハ一月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ若シ請願人ノ外教唆者アルトキハ發起人ト同ク罪ヲ論ス其嘯聚ニ涉ル者ハ刑法ニ依テ處分ス

第十八條　請願人官吏ニ對シ抗論シ喧擾ニ涉ル者ハ十一日以上一年以下ノ輕禁錮ニ處ス其侮辱ニ涉ル者ハ刑法ニ依テ處分ス

第十九條　請願書ハ新聞紙其他ノ文書ヲ以テ公行スルヿヲ許サス犯ス者ハ罪前條第一項ニ仝シ

第二十條　請願ニ由リ人ヲ誣告スル者ハ刑法ニ依テ處分ス

●參照

（廢九七ノ一三、四條參看）
（廢九七ノ一二、七條參看）
（廢九七ノ一二、二、七條參看）
（廢九七ノ一七條參看）
（明五八六廢九七ノ一三、一四、五、一六條刑法第一三六條以下參看）
（廢九七ノ一三、一六條參看）
（廢九七ノ一三、一四條刑法第一四一條參看）
（廢八八ノ一八、八九ノ一五、九七ノ三、四條參看刑法第三五五條以下參看）

○關係法令

[五八六] 內務省令第二號 明治二十年九月廿九日

凡ソ意見ヲ建言シ又ハ各自ノ利害ニ關シ請願スル者ハ明治十二年第五十三號布告及十五年第五十八號布告ニ依遵スヘキ處近來建言ヲ名トシ官吏ニ面謁口陳ヲ求メ從テ抗論喧擾ニ涉ル者アリ右等ハ何等ノ名義ヲ用ユルニ拘ラス其違犯者ハ總テ十五年第五十八號布告ニ依リ處分スヘシ

○伺指令

[五八七] 大藏省伺 明治十六年六月十九日

請願規則第四條ニ其連名ヲ以テ請願スル者ハ各人自ラ署名捺印云々トアリ就テハ社寺ノ財產氏子檀家ノ共有物ニ關シ請願者アルトキハ其神官住職幷共有者各自連署捺印ヲ要スヘキ筋ニ候ヘ共從來社寺財產ノ義ハ他會社等ノ共有物ト其性質ヲ異ニスルモノニ付實際本條ニ據ル能ハサルヲ以テ明治十四年內務省乙第三十三號達ノ手續ニ依リ請願候者有之トキハ受理致シ可然哉此段相伺候也

太政官指令 明治十六年七月二日

伺之通

(九八)石油取締規則 明治十六年二月第六號布告

明治十四年八月第四十號及ヒ同年九月第五十號布告石油取締規則左ノ通改定ス

第一條 石油ヲ分テ二種トシ閉塞發焰試驗法ヲ用ヒ攝氏驗溫器三十度(攝氏八十六度)以上ノ溫度ニ達セサレハ發焰セサルモノヲ第一種トシ三十度ニ達セスシテ發焰スルモノヲ第二種トス

第二條 點燈用ニ供スルハ第一種ノ石油ニ限リ第二種ノ石油ハ醫療製藥調劑及ヒ物理學化學工藝上ニ於テ業用ニ供スルノ外之ヲ用フルヲ許サス

第三條 石油營業者ヲ分テ壇業者精製者問屋及ヒ小賣商ノ四類トス其營業者ハ都テ管轄廳(東京府下ハ警視廳)ノ許可ヲ受クヘシ但二類以上兼業スルトキハ別ニ其許可ヲ受クヘシ

第四條 石油ノ種類ハ內務卿ノ必要トスル地方ニ於テ檢查員ヲシテ之ヲ檢查セシムヘシ石油ハ檢查濟ノ證アルモノニアラサレハ之ヲ販賣スルヲ許サス但壇業者ヨリ精製者ニ販賣スルハ此限リニアラス

第五條 檢查濟ノ石油ヲ家屋內ニ貯藏スルヲ得ルハ第一種ノ石油五石以內第二種ノ石油五斗以內トシ容器ハ漏出ノ虞ナキ不燃質物ニ限ルヘシ

第六條 石油營業者前條制限外ノ石油幷檢查未濟ノ石油ヲ貯藏スル場所建物及ヒ精製所ノ拂造方ハ都テ管轄廳(東京府下ハ警視廳)ノ認可ヲ受クヘシ

第七條 第二種ノ石油ハ精製者問屋ヨリ直ニ需用者ニ販賣シ小賣商ハ第一種ノ石油ニ限リ販賣スルヲ得ルモノトス

第八條 第二種ノ石油ヲ販賣スル者ハ購買者ヨリ其數量及ヒ需用ノ趣意年月日住所氏名ヲ詳記シタル書付ヲ取リ置キ一年間保存スヘシ但販賣時限ハ日出ヨリ日沒マテトス

第九條 石油ヲ運搬スルトキハ其石油タルヿヲ表記スヘシ但其積卸ニ必要ナル時間ノ外物揚

(第九八ノ二三、四五、七九、一〇)

條參看

(第九八ノ一五、一〇)條參看

(第九八ノ一四、七九、一〇)條參看

(第九八ノ一三、一〇)條參看

(第九八ノ一二、六、一〇)條參看

(第九八ノ五、一〇)條參看

(第九八ノ一三、八、一〇)條參看

(第九八ノ七、一〇)條參看

(第九八ノ一三、一〇)條參看

場又ハ路傍ニ置クヘカラス

第十條　此規則ヲ犯シタル者ハ二圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

○

（九九）船税規則　明治十六年四月第十三號布告

船税規則別冊ノ通制定シ明治十六年七月一日ヨリ施行ス

但船税ニ關スル從前ノ布告布達ハ廢止ス

（別冊）

船税規則

第一章　鑑札　税率　免税

第一條　凡ソ船舶ハ此規則ニ依リ課税スル者トス

第二條　船舶所有主ハ其船舶定繫場ヲ定メ定繫場所在ノ地方廳ニ願出檢査ヲ受ケ鑑札ヲ乞フヘシ

第三條　新規造船シタル者其造船場所在ノ府縣管内ニ定繫場ヲ定メサル時ハ該廳ニ願出檢査ヲ受ケ假鑑札ヲ乞ヒ定繫場ニ回漕ノ上其地方廳ニ願出本鑑札ト引換ヲ乞フヘシ

第四條　船體ヲ變更シ積量若クハ間數ニ增減ヲ生スル時ハ其定繫場所在ノ地方廳ニ願出檢査ヲ受ケ鑑札ノ引換ヲ乞フヘシ

第五條　船舶ヲ賣買讓與シタル者ハ雙方連署ノ上買受讓受主ノ定ムル定繫場所在ノ地方廳ニ願出鑑札ノ引換ヲ乞フヘシ

第六條　船舶ノ税率ハ左ノ如シ

西洋形蒸滊船　百噸ニ付一年金拾五圓

同風帆船　同　同金拾圓

日本形船積石五拾石以上　百石ニ付同金貳圓

同積石五拾石未滿　長自舳梁至艫梁三間迄ハ一年金五拾錢

浮漁船小廻船積石ニ拘ラス　長自舳梁至艫梁三間迄ハ一年金三拾錢

但三間以上壹間ヲ加フル毎ニ金拾五錢ヲ增加ス

遊船　長自舳梁至艫梁三間迄ハ一年金五拾錢

但三間以上壹間ヲ加フル毎ニ金貳拾五錢ヲ增加ス

第七條　本鑑札又ハ假鑑札ハ航行若クハ回漕ノ時之ヲ本船ニ所持スヘシ

但日本形積石五拾石未滿ノ船並浮漁船小廻船遊船ノ本鑑札ハ其船ニ釘付スヘシ

第八條　解船破船又ハ水火盜難等ニ因リ船舶ヲ失ヒタル者ハ其旨定繫場所在ノ地方廳ニ屆出鑑札ヲ還納スヘシ

第九條　鑑札ヲ亡失毀損シタル時或ハ改名代替ノ時或ハ船號ヲ改メ若クハ定繫場ヲ變換シタル時ハ其旨定繫場所在ノ地方廳ニ願出鑑札ノ再渡若クハ引換ヲ乞フヘシ

第十條　左ニ掲クル船舶ハ其税ヲ免除ス其所有主ハ地方廳ニ屆出免税ノ烙印ヲ乞フヘシ

倉庫船

水田ノ耕作ニ用フル船

五(廿)九九ノ一、六一九二〇條參看

水災ノ爲メ陸地ニ備ヘ置ク船

橋梁ニ換ヘ渡場ノミニ用フル船

船橋ノ組成ニ用フル船

航海中本船ニ揚ケ置ク傳馬船「パッテーラ」船ノ類

第二章　納稅

第十一條　稅金ハ一年ヲ二期ニ分チ一月一日七月一日現在ノ船舶ヨリ徵收スル者トス其前半年分ハ一月三十一日限リ後半年分ハ七月三十一日限リ定繫場所在ノ地方廳ニ上納スヘシ

(廿)九九ノ一、六、一二、一四條參看

第十二條　新規造船シタル者ハ鑑札ヲ受クル時該期ニ係ル稅金ヲ上納スヘシ

(廿)九九ノ二、三、一一條參看

第十三條　船體ヲ變更シ積量若クハ間數ニ增減ヲ生シタル時ハ次期ヨリ其積量又ハ間數ニ隨ヒ稅金ヲ納ムヘシ

(廿)九九ノ二、三、一五、一六、二〇條參看

第十四條　他管下ニ定繫場ヲ定ムル者ハ該地ニ代人ヲ定メ連署ノ上其定繫場所在ノ地方廳ニ屆出納稅ヲ辨セシムヘシ

別五九〇、(廿)九九ノ二、一四、二〇條參看

第十五條　本籍管內ニ定繫場ヲ定メタル者不在ノ時ハ代人ヲ定メ其地方廳ニ屆出納稅ヲ辨セシムヘシ

(廿)九九ノ三、一四、二〇條參看

第十六條　假鑑札ヲ受ケタル船舶定繫場ニ回漕中納稅期限ニ係ル時ハ豫メ定繫場所在ノ地ニ代人ヲ定メ其地方廳ニ屆出納稅ヲ辨セシムヘシ

(廿)九九ノ一、三、三六條參看

第十七條　此規則ヲ犯シ脫稅ニ係ル者ハ處罰ノ後其稅金ヲ追徵ス

別六〇、六(廿)九九ノ一、二、三、四、五、二二條參看

別六〇、五(廿)九九ノ六、一〇、二一條參看

(廿)九九ノ二一條參看

第三章　罰則

第十八條　此規則ヲ犯シ脫稅ニ係ル者ハ其脫稅高五倍ノ科料若クハ罰金ニ處ス

第十九條　免稅船ヲ有稅船ノ用ニ充テタル者ハ貳圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條　第三條第五條第七條第九條第十四條第十五條第十六條ヲ犯シタル者及第十條ノ免稅船ニ烙印ヲ受ケサル者ハ壹圓以上壹圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十一條　此規則ニ依リ罰金若クハ科料ニ處スル者ハ刑法ノ不論罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス但刑法第七十五條第七十六條ノ場合ハ此限ニアラス

●參照

○關係法令

五八八　大藏省第三十六號達　明治十六年六月

本年四月第十三號ヲ以テ船稅規則制定布告相成候ニ付右取扱心得書別紙ノ通相定ムス

但明治四年十二月廿六日達噸石數改方法則ノ外船稅規則ニ關スル從前ノ達ハ廢止

（別紙）

船稅取扱心得書

第一條　西洋形蒸瀛風帆船並ニ日本形積石五拾石以上ノ船鑑札ハ第一號雛形ノ通日本形積石五拾石未滿ノ船並ニ搔漁船小廻船遊船ノ鑑札ハ第二號雛形ノ通府縣廳ニ於テ

調製下付スヘシ

但假鑑札ハ雖形鑑札ノ上ヘ假ノ字ヲ記入スヘシ

第二條　噸數ハ壹噸積石數ハ壹石間數ハ壹間ニ止メ其以下端數ハ切捨ツヘシ

第三條　規則第七條但書鑑札釘付ノ箇所及ヒ同第十條免稅印烙記ノ箇所ハ艫外部後面ニ之ヲ爲スヘシ（明治十七年三月大藏省第二十號達ヲ以テ改正）

但烙印ハ從前雖形ノ如ク府縣廳ニ於テ調製スヘシ

第四條　規則第三條ニ據リ檢査ヲ爲シ假鑑札ヲ付與シタルトキハ其旨定繫場所在ノ管廳ニ通知スヘシ其通知ヲ受ケタル管廳ハ直ニ其地ノ船籍ニ編入シテ該期ノ稅金ヲ收入シ追テ本鑑札引換相渡シタル上最前通知ノ管廳ニ報道スヘシ

第五條　船舶賣買讓與其他ニテ定繫場ヲ變換シ其新舊定繫場甲乙兩管廳ニ交涉スルトキ乙管廳ニ於テ其地ノ船籍ニ編入鑑札引換相渡シタル上ハ直ニ甲管廳ニ報道スヘシ

第六條　前二條ノ手續ニ依リ鑑札引換ノ節ハ更ニ該船ノ檢査ヲ要セス舊鑑札若クハ假鑑札ニ記載ノ噸石數又ハ間數等ニ據ルヘシ

但其返納セシ舊鑑札假鑑札ハ不取締無之樣消却シ最初下付シタル管廳ヘ返戻ニ及ハス

第七條　船舶ノ內其船體ノ構造若クハ綱具ノ裝置等西洋形ニ摸擬セシモノハ總テ西洋形船ニ準シテ課稅スヘシ（明治十七年三月大藏省第二十號達ヲ以テ改正）

第八條　西洋形（蒸風帆）船ハ港灣湖川等ヲ運用スル小船ト雖ヒ總テ其噸數ニ依リ捕漁船小廻船ハ積石數五拾石以上ト雖モ總テ其間數ニ依リ課稅スルモノトス

第九條　港灣其他ノ海岸又ハ湖川等ニ碇泊又ハ繫キ置ク船舶ハ主任官隨時之ヲ檢査スヘシ

第十條　船稅表及ヒ免稅船員數表ハ第三號　四號雖形ニ倣ヒ毎半年分ツヽ調製翌期七月三十一日限リ該地差立租稅局ヘ送付スヘシ

（雖形畧ス）

○伺指令

五八九　滋賀縣伺　明治十六年七月三日

湖川ノ日本形船ハ積石百五十石以上ト雖モ小廻船ト見做シ可然ヤ右相伺候也

大藏省指令　明治十六年七月十七日

小廻一途ニ用フルモノニ限リ積石ニ拘ハラス小廻船トス

○

五九〇　兵庫縣伺　明治十六年七月二日

船稅規則第十五條中不在ノ時トハ其定繫場ニ不在ノモノヲ曾フヤ右相伺候也

大藏省指令　明治十六年七月十四日

申出之通

○

五九一　福岡縣伺　明治十六年六月七日

第一條　本年太政官第十三號布告船稅規則第六條西洋形船噸數及日本形船石數改方ハ從前ノ手續ヲ以テ調査スヘキヤ將タ更ニ改方手續等御指示相成ルヘキヤ

第二條　前同條中積石五十石未滿解漁船小廻船等ノ間數改方ハ自然樂至艫樂トアリ右艫樂トハ貫木等ノ次位胴樂ノ上位ニアル棧樂ノ義ナルヤ

第三條　同則第十條水田ノ耕作ニ用フルトハ平生水浸ノ濕田ニシテ四圍川堀等縱横相繞回シ苅稻肥料等都テ水路運搬ニ供スル船及離島ノ耕作ニ係ル海路運搬ニ用フル船等ヲ指スヤ將タ人畜立入難ク船ニ非ラサレハ往來シ能ハサル深泥ノ水田ニ用フル船轍チ船上ヨリ抻秧苅稻等ヲナスモノニ限ルヤ

第四條　平生公園地內ノ池中ニ浮ヘ公衆ノ快樂ニ供スルカ學校搆內ノ池中ニ浮ヘ生徒等ノ用ニ供スルカ陸地ニ揚置キ神祭ノ日ニ限リ神輿ヲ乘セテ祭式執行ニ供スル船ハ船稅規則施國外ノモノトシ可然ヤ

第五條　土米工事一途ニ用フル船ハ稅則第十條ニ明文ナシ右ハ普通船稅ヲ賦課スヘキヤ將タ同則施國外ナルヤ

右相伺候也

大藏省指令　明治十六年七月十八日

第一條　前段申出ノ通

第二條　申出ノ通

第三條　水田ノ深泥ニシテ船ニ非サレハ耕作シ能ハサル場所ニ用フル田船ヲ指タルモノニシテ耕作及農具作物肥料等ヲ運搬スルノ外他ノ用ニ供セサルモノニ限ル義ト了知スヘシ

第四條　無料ニテ公衆ノ快樂ニ供スルモノハ課稅ノ限ニアラス生徒等ノ使用ノ事實ハ取調更ニ伺出ヘシ宮國幣社ノ神事ニ供スルモノハ課稅ノ限ニアラス

第五條　官廳ノ使用ヲ除ク外前段申出ノ通

（カ五九四号参照）

五九二　福井縣伺　明治十六年七月卅一日

○

通路ナキ潮區ニシテ人ヲ乘スルノミニ用フル一村持ノ渡船アリ甲乙丙ノ各地ヘ渡航スル者ノ如キモ免稅ノ部ナルヤ右相伺候也

大藏省指令　明治十六年八月六日

播樂ニ換ル者ノ外ハ免稅ノ限ニアラス

○

五九三　大阪府伺　明治十六年七月三十日

第一條　船稅規則第十條免稅ノ部ニ水田ノ耕作ニ用フル船トアリ右水田トハ陸田ニ對スル稱呼ニシテ一般ノ水田ヲ總稱シタル者ナルヤ將タ普通一般ノ水田ヲ總稱スルニアラス特ニ深田沼田等ヲ指稱シタルヤ

第二條　前條特ニ深田沼田ヲ指稱シタルモノナレハ川中付洲及海田埋立新田等ノ耕地ハ四圍水ヲ繞ラシ徒步シテ耕地ニ達スル能ハス故ニ常ニ船力ヲ藉リ農具作物肥料等ヲ載セテ往來セリ該船ハ農事一途ニ使用シ他ノ運用ニ供セサルモノニシテ深田沼田ニ使用スル船ト雖モ軒輊ナキモ尚ホ免稅セサルヤ右相伺候也

大藏省指令　明治十六年八月二十日

第一條　水田トハ深田沼田等ニシテ船ニ非サレハ耕作シ能ハサル場所ヲ指稱ス

第二條　川中付洲海面埋立等ノ耕地ニシテ船ニ非サレハ往來シ能ハサル場所ヘ農具作物肥料等ヲ運搬スルノ外他ノ用ニ供セサル船ハ播樂ニ換ヘ渡場ノミニ用フル船ニ準シ免稅スヘシ

（カ五九六号参照）

○

五九四　愛知縣伺　明治十六年八月廿一日

（カ五九一号参照）

實報第二十七號伺指令欄內船稅規則第十條水田ノ耕作ニ用フル船ノ性質福岡縣伺ニ對シ水田ノ深泥ニシテ船ニ非サレハ耕作シ能ハサル場所ニ用フル田船ニシテ耕作及其農具作物肥料等運搬スルノ外他ノ用ニ供セサルモノニ限ル旨御指令有之ニ付テハ水田ニ非サル田圃ヘ耕作人便宜ノ爲メ農具肥料等運搬往返スル小船ハ無論免稅ノ

限ニ非サルヤ右相伺候也

大藏省指令　明治十六年八月卅一日

免稅ノ限ニ非ス但河川ヲ隔テタル耕地ヘ農具肥料又ハ其他ノ收穫物ヲ運搬スルニ止マル船ナレハ規則第十條第四項ニ準シ免稅スヘシ

○

五九五 徳島縣伺　明治十六年九月十二日

一村又ハ一部落ヲ劃斷スル一川ヲ臨ヘ耕作スルモノアリ該上流或ハ下流ニ橋梁又ハ渡船場アルモ肥料農具等運搬迂回不便ナルヲ以テ一村或ハ一部落又ハ一已一人ニテ右耕作ニ往復スルノミニ設ケタル渡船ハ規則第十條中橋梁ニ換ヘ渡船ノミニ用フル船ニ準シ免稅シ可然哉

大藏省指令　明治十六年九月廿五日

伺之通

○

五九六 愛媛縣伺　明治十六年九月十日

第一條　官報第五十六號伺指令欄內大阪府伺第二條ニ對シ御指令川中附洲海面堤立等ノ耕地ニシテ船ニアラサレハ往來シ能ハサル場所ヘ農具作物肥料等ヲ運搬スルノ外他ノ用ニ供セサル船ハ橋梁ニアリシニ因レハ甲ノ島民ニシテ乙島ノ耕地ニ肥料作物農具等ヲ運搬スルニ止リ一切他ノ用ニ供セサル船モ同樣免稅ト心得然ルヘキ哉

第二條　甲乙兩島間渉クハ甲ノ陸地ト乙ノ島嶼トノ間ニ一日數回往復スル渡船ハ橋梁ニ換フルモノトシ免稅ト心得然ルヘキ哉

大藏省指令　明治十六年十月十六日

第一條　申出ノ通

第二條　渡船ヲ定メ彼我ノ往復而已ニ用フル渡船ハ申出ノ通ソ

○

五九七 秋田縣伺　明治十六年九月廿六日

本年四月第十三號ヲ以テ船稅規則公布アリ船稅ニ關スル從前ノ布告布達ハ廢止セラレシニ該稅則中官用船處分方明文ナシト雖モ六年第九十三號布達ニ基キ管廳使用船ハ總テ無稅ニテ廳銘號ノ燒印ヲ適宜ノ個處ニ押シ使用シ可然ヤ右相伺候也

大藏省指令　明治十六年十月十六日

伺之通

○

五九八 滋賀縣伺　明治十六年八月七日

本縣下琵琶湖ハ其周圍五十九里南北十五里二十七町東西平均五里強ニシテ該湖ニ用フル船ハ湖上ノ外他ニ通スルヲ得ス學意灣內ノ小廻ニ均シキモノナレハ總テ該湖ニ用ル日本形船ハ小廻船ニシテ課稅シ然ルヘキヤ固ヨリ海船ノ灣內ニ使用スルモノト回漕トノ區分ノ如ク判然タル區別不相立モノニ有之候條右邊御洞察至急御指令被下度又右ノ如キ湖上一途ノ使用船ニテモ回漕ト小廻トノ區分ヲ要スル御旨趣ニ候ハヽ其區分方詳細御指示被下度此段相伺候也

大藏省指令　明治十六年十二月十三日

琵琶湖內ノ日本形回漕船ハ都テ小廻船トシテ課稅スヘシ

○

五九九 兵庫縣伺　明治十七年二月十八日

耕地用水ノ爲メ年々堰キヲナスニ深淵ニシテ徒渉スル能ハス止ムヲ得ス船力ヲ藉リ土木ノ運搬ハ素ヨリ船中ニ

テ其撰キ方ヲナス船ハ一切他ノ用ニ供セサルモ免税ノ限ニアラヌカ

大藏省指令　明治十七年二月廿九日

伺之通

○

六〇〇　山口縣伺　明治十七年四月廿一日

他管下ノ者本縣下ニ於テ免税船ヲ新造シ其定繫場マテ歸港ノ節ハ假鑑札下付スヘキ限ニ非スヤ然ルトキハ證票ナク管理上不都合ニ付假鑑札付與セサル旨ノ證書ヲ下渡シ然ルヘキヤ

大藏省指令　明治十七年五月六日

伺之通

○

六〇一　廣島縣伺　明治十七年五月五日

客月廿四日付第十號ヲ以テ船舶積量測度規則布告相成右ハ來ル七月一日ヨリ施行セラルヽモノナレハ從前檢査濟ノ船舶ニシテ同日付第十號布達船舶積量測度方法ニ依リ測度スル時ハ多少差異ヲ生スルモノ更ニ檢査スルニ及ハサル儀ニ候哉

農商務省指令　明治十七年五月十九日

伺之趣從前測度濟ノ分ト雖モ更ニ檢査候儀ト相心得ヘキ事

○

六〇二　石川縣伺　明治十八年三月廿七日

管下加賀國江沼郡柴山潟端ニ位置セシ村落該潟中收拾町ヲ隔テ新開耕地ヲ有ス往復頗ナキニハ非スト雖モ逕回不便ナルヲ以テ直徑往來スルニ船ニ非サレハ能ハス該箇所ニノミ用ユル肥料農具作物類ヲ運搬スル船ハ免税シ然ルヘキヤ

大藏省指令　明治十八年四月十日

伺之趣場所及ヒ船ヲ指定シ橋梁ニ換ヘ渡場ノミニ用ユルモノニ限リ其他自家ノ用ニ供スルモノハ免税ノ限ニアラサル儀ト可相心得事

但撰前指令ニ及ヒタル分モ爾後本文ニ據リ取扱フヘシ

○

六〇三　岡山縣伺　明治二十年二月五日

本年二月以臨登記法實施ニ付テハ船舶實體臨等ハ總テ登記濟ノモノニ非サレハ鑑札下附書換ヲ爲サヽル儀ト心得然ルヘキヤ

大藏省指令　明治二十年二月十七日

伺之趣登記ノ濟否ニ拘ハラス直ニ鑑札書換下付可致儀ト可相心得事

○

六〇四　島根縣上申　明治二十年七月廿一日

船舶ノ收税ハ新規造船シ鑑札下付ヲ願出スシテ其儀之ヲ使用スルモノ其多キニ居候處近來檢査ノ厳密ナルニ隨ヒ更ニ逃税ノ策ヲ案出シ流失船紛失船ノ鑑札ヲ剽取リ之ヲ無鑑札船ニ釘付スル者或ハ解船ノ届出ヲ差出シテ依然之ヲ使用スル者又ハ無鑑札船ヲ有シ檢査ノ之レアルヲ聞ケハ則チ弥ニ他船ノ鑑札ヲ剽取リ之ニ釘付シテ以テ一時ノ僥倖ヲ得ントスル者等日ヲ逐フテ增加ノ勢ニ有之候就テハ船税規則第七條但書ノ鑑船舶ニ烙印致候ハヽ鑑札ヲ窃取釘付セントスルモ其烙印ナキカ故逃税ニ由ナクシテ此奸策モ遂ヲ收ルニ至ルヘク又解船届出ノ際檢印アル部分ヲ差出サシムルコトニ致候ハヽ解船ヲ届出ナカラ尚ホ且ツ依然之ヲ使用スルノ弊害モ隨テ減スヘク勞取締上良策ト存候ニ付自今鑑札下付ノ際船舶檢査ノ内部ヘ檢印烙記シ其他ハ管内一般船舶ニ照査シテ悉皆烙印

ヲ施スヘキ見込ニ有之候條右樣御聽置相成度

大藏省指令　明治二十年九月八日

上申ノ趣允可ス

○判決例

六〇五 明治二十年乙第九百四十四號　三重縣平民　諸戸久七

船稅規則第十條ニ左ニ掲クル船舶ハ其稅ヲ免除ス云々水田ノ耕作ニ用ユル船トアリ然レハ該船ニ積載シテ運搬シ得ヘキモノハ特リ農具ト云フヘキモノニ限ラス其水田耕作ニ必要缺クヘカラサルノ具ハ之ヲ運搬シ得ヘキモノト解釋セサルヲ得ス本件原裁判所カ認定シタル事實ハ水田ノ稻干場ニ用ユル竹拾壹本ヲ自己水田ニ運搬シ「ハサ」ヲ造ラントスルニ在リテ耕作用品ノ運搬ト認メンセソナルヤ明瞭タレハ同則第十九條ノ制裁ヲ受クヘキモノニアラストシ無罪ヲ言渡シタルハ違法ノ裁判ニシテ擬律ノ錯誤ニ之レナキモノトス

明治二十一年一月十四日

○

六〇六 明治十八年第二四〇一號　縣平民　大塚武助

船稅規則第二條ニ(船舶所有主ハ其船舶定繫場ヲ定メ定繫場所在ノ地方廳ニ願出檢査ヲ受ケ鑑札ヲ乞フ(シ)トアルヲ以テ同第十八條ノ犯罪ヲ擬造センニハ第一願出鑑札ノ下付ヲ乞ハサルヿ第二稅ヲ逋脫スルヿノ二條件具備シテ以テ組成スルモノナレハ此條ニ該ル所爲アリト認定スルニハ宜ク其條件具備スル所ノ事實理由ヲ明示セサル可ラス今原裁判言渡書ヲ閲スルニ(前略被告ハ云々採藻等ニ供スル有稅ノ小廻船登綱ヲ無鑑札ニテ使用脫稅シタル者トス)トノミアツテ其無鑑札トハ果テ願出テ鑑札ヲ乞ハサルト云フニ在ル歟將タ出願シタルニ在ルモ未タ其鑑札下付ナキ前ニ使用シタレハ無鑑札ト異ナルヿナシト云フノ意ニ在ル歟分明ナラサルノミナラス其脫稅シタルト云フカ如キモ果テ稅ヲ逋脫シタルトノ意ニ在ル歟將タ稅金ハ上納シタルモ個ハ上納スヘキ役所ニ上納シタルニ非サレハ從テ其効ナク逋脫シタルト同一ナリト云フノ意ニ在ル歟判然タラサレハ其如何ヲ職別スルニ由ナシトス今試ニ原裁判官カ心證ノ資料タラシメタル所ノ證憑ヲ閲査スレハ上告論旨ノ如ク既ニ鑑札下付ノヿハ所轄戶長役場ニ出願スルト同時ニ稅金モ上納シアルヿ分明ニシテ只タ鑑札下付アラサル前ニ使用シタルニ過キサルモノヽ如ク渉シ果テ此事實ニ外ナラストセハ右二條件具備セサルヲ以テ被告人ノ所爲タル右第十八條ニ照シ罰スルヿヲ得サルモノニ似タリ然リト雖モ以上ノ如ク水産犯罪組成上必要ナル事實理由ニ至テハ原裁判官モ未タ明示シタルニ非サレハ容易ニ擬律ノ當否ヲ鑑別スルニ由ナク究竟治罪法第三百四條ノ規定ニ悖リタル失當ノ裁判ナルヲ以テ破毀ノ原由アルモノトス

明治十九年八月廿六日

(一〇〇)西洋形船舶檢査規則　明治十七年十二月第三十號布告

西洋形船舶檢査規則別冊ノ通制定シ明治十八年七月一日ヨリ施行ス

(別冊)

西洋形船舶檢査規則

第一條　西洋形船舶(海軍艦船ヲ除ク)ハ此規則ニ遵ヒ檢査ヲ受クヘシ但登簿船免狀ヲ受有スルニ及ハサル風帆船ハ此限ニアラス

第二條　船舶檢査所設置ノ場所ハ農商務卿之ヲ定ム

第三條　檢査所所在ノ地方ヲ航行スル船舶ノ檢査ハ其最寄檢査所ニ願出ヘシ

第四條　檢査所未設ノ地方ヲ航行スル船舶ノ檢査ハ其船籍アル地方廳ヲ經テ農商務省ニ願

出ヘシ

第五條　登簿船免狀ヲ受有スルニ及ハサル汽船ノ檢査ハ其船籍アル地方廳ニ願出ヘシ

第六條　檢査官吏ハ農商務卿之ヲ命ス但第五條ノ汽船ニ係ル檢査官吏ハ府知事縣令之ヲ命ス

第七條　檢査官吏ニ於テ船舶ヲ檢査シ航行ニ適當ト認ムルトキハ農商務省ヨリ左ノ事項ヲ記載シタル檢査證書ヲ交付ス但地方廳ノ檢査ニ係ル者ハ其廳ヨリ之ヲ交付ス

一　番號
一　船名
一　船主氏名
一　定繫場名
一　登簿噸數
一　端船其他必要ノ所屬品
一　航行シ得ヘキ場所ノ定限
一　證書有効期限
一　汽船ニハ左ノ事項ヲ加フ
　公稱馬力
　汽機ノ種類
　汽罐ノ種類
一　最大汽壓

第八條　檢査官吏ニ於テ船舶ヲ檢査シ航行ニ不適當ト認ムルトキハ其修理ヲ命シ或ハ出航ヲ差止ムヘシ

第九條　檢査證書ノ効力ハ其船ノ現狀ニ依リ六箇月十二箇月ニ區別ス

第十條　檢査證書ハ船内最モ見易キ場所ヘ掲ケ置クヘシ

第十一條　檢査證書ヲ亡失若クハ毀損シタルトキハ其理由ヲ詳記シ再渡ヲ願出ヘシ

第十二條　船名船主及ヒ定繫場ヲ變更シタルトキハ農商務省又ハ地方廳ニ屆出ヘシ

第十三條　船體若クハ汽機汽罐其他要部ノ修理若クハ變更ヲナシタルトキハ更ニ檢査ヲ受クヘシ

第十四條　船舶航行ノ用ヲ爲サヽルニ至リタルトキ又ハ除籍トナリタルトキハ直ニ檢査證書ヲ農商務省又ハ地方廳ニ返納スヘシ

第十五條　檢査證書ノ有効期限内ト雖モ檢査官吏ニ於テ必要ト認ムル場合ニ於テハ臨檢スルコトアルヘシ

第十六條　船舶ノ檢査ヲ受スシテ航行シ又ハ無効ノ檢査證書ヲ使用シ又ハ檢査證書ニ記載セル最大汽壓ヲ超過シ或ハ場所ノ定限ヲ越エテ航行シ又ハ檢査官吏ノ命ニ逆背シ修理セスシテ出航シ若クハ差止ノ命ニ違背シテ出航シタル者ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條　檢査證書ニ記載セル端船其他必要ノ所屬品ヲ具ヘス又ハ旅客定員ヲ超過シテ航

一　旅客定員

行シ又ハ第十三條ヲ犯シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條　檢査官吏ノ臨檢ヲ拒ミ又ハ第十條ヲ犯シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條　前三條ノ場合ニ於テ正當ノ事由アルモノハ其罪ヲ論セス

第二十條　第十一條第十二條第十四條ヲ犯シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十一條　檢査細則及ヒ施行ノ手續ハ農商務卿之ヲ定ム

●參照

○關係法令

六〇七　遞信省令第四號　明治十九年四月

西洋形船舶檢査細則左ノ通之ヲ定ム

西洋形船舶檢査細則

第一條　西洋形船舶檢査規則ニ依リ檢査ヲ受クヘキ船舶ハ此細則ニ據ルヘシ

第二條　檢査規則第三條及第五條ニ揭クル船舶ハ其船主若クハ船長ヨリ第一號書式ノ願書ヲ直チニ司檢所(不登簿船ハ其地方廳)ニ差出シ檢査ヲ受クヘシ

第三條　檢査規則第四條ニ揭クル船舶ハ其船主若クハ船長ヨリ第一號書式ノ願書ヲ其船籍地方廳ヲ經テ豫シメ遞信省ニ差出シ檢査官吏ノ派出ヲ俟テ便宜其檢査ヲ受クヘシ

第四條　檢査ヲ受ケ檢査證書ヲ受領セサル以前ニ於テ本船ヲ運航セントスルトキハ其船主若クハ船長ヨリ檢査官吏ニ請フテ第二號書式ノ假證書ヲ受クルヿヲ得但假證書ノ効用ハ三箇月ヲ以テ限リトス故ニ右期限內本證書ト交換スヘシ

第五條　遞信省若クハ地方廳ハ第三號書式ノ檢査證書ヲ作リ登簿船ハ司檢所ヲ經由シ不登簿船ハ便宜之ヲ船主若クハ船長ニ下渡スヘシ但檢査規則第四條ニ揭クル船舶ニハ其地方廳ヲ經テ之ヲ下渡スヘシ

第六條　檢査規則第七條ニ揭クル航路ノ定限ハ左ノ四項ニ區別ス

第一　外國航船　內外國諸港ニ航通スルモノ

第二　內國航船　內國諸港ニ航通スルモノ但朝鮮國南界ノ鴨綠江ヨリ露領黑龍江ニ至ル沿岸及ヒ蘿哦嗹諸港ニ航スルモノモ包含ス

第三　近海航船　內國沿岸ノ近港及ヒ內地ト離島ノ間ヲ航通シ特ニ其航路ヲ定限シタルモノ

第四　平水航船　湖川及ヒ靜穩ノ海上ヲ限リ航通シ特ニ其航路ヲ定限シタルモノ

第七條　左ノ場合ニ限リ航路定限外ヲ航行スルモ妨ケナシ

第一　航路定限外ノ地ニ於テ製造若クハ購求シタル船舶檢査ヲ經タルト否トヲ問ハス其航路定限內ノ地或ハ最寄司檢所其他檢査ヲ受ヘキ場所迄航行スルモノ

第二　航路定限內ニ檢査ヲ受クヘキ一定ノ場所ナキカ爲メ特ニ最寄司檢所其他檢

査ヲ受クヘキ場所迄航行スルモノ

第三　航路定限内ニ於テ船體若クハ汽機汽鑵其他要部ヲ修繕スヘキ場所ナク爲メニ最寄工場所在地迄航行スルモノ

第八條　船内旅客ノ定員ハ寢床ノ數ヲ以テ定ム尤モ雜居室ノ定員ハ左項ニ據ルヘシ

但多數ノ兵卒若クハ移住民人夫等ヲ搭載シ航通スルモノ及ヒ河川渡舟ノ如キハ旅客定員ノ限ニアラス

第一　外國航船ハ一坪六尺四方下等三人但内國ヲ限リ航通スルモノハ内國航船ノ旅客定員ニ據ルヲ得

第二　内國航船ハ一坪六尺四方上等二人中等三人下等四人

第三　近海航船及ヒ平水航船ハ一坪六尺四方上等四人中等五人下等六人但航通ノ途次他ニ寄港スルト否トヲ問ハス六時間以内ニ仕向港最終ノ地ニ到達シ得ヘキモノハ定員ノ外一坪六尺四方ニ付上中等ハ一人下等ハ二人マテヲ增加スルヲ得

第四　湖川ヲ限リ航通スル船舶ノ下等旅客ハ場合ニヨリ一坪六尺四方十人迄ニ增加スルヲ得

第九條　登簿噸數五百噸以上ノ船舶ニシテ船體汽機ノ外國航通ニ堪ヘサルモノヲ除クノ外ハ其外國ニ航スルト否トヲ問ハス都テ外國航船トシテ檢査ヲ受クヘシ

第十條　登簿免狀ヲ受有スル船舶ハ臨時檢査ヲ除クノ外前回檢査ヲ受ケタル司檢所（檢査規則第四條ニ掲クル船舶ハ其地方廳）ヘ次回ノ檢査ヲ願出ヘシ但其航路ヲ變スル等ノ場合ニ於テハ此限ニアラス

第十一條　檢査規則第十三條ニ掲クル船舶ハ最寄司檢所（不登簿船ハ其地方廳）ニ願出テ檢査ヲ受クヘシ

第十二條　船主ノ都合ニ依リ船舶ヲ入渠若クハ上架セントスルトキハ其旨ヲ前回檢査ヲ受ケタル司檢所（檢査規則第四條ニ掲クル船舶ハ管船局ニ又不登簿船ハ其地方廳）ニ屆出ヘシ

第十三條　檢査施行ノ際船免狀及ヒ乘組員技術免狀ヲ合セテ檢査官吏ノ檢閲ニ供スヘシ

第十四條　定時臨時ニ拘ハラス修繕等ノ爲メ運航ヲ差止メタルトキハ檢査官吏ニ於テ本船現有ノ檢査證書ヲ引上置クヘシ

第十五條　檢査規則第十一條第十二條第十四條ノ場合ニ於テハ船主若クハ船長ヨリ其事由ヲ詳記シタル書面ヲ前回檢査ヲ受ケタル司檢所（不登簿船及檢査規則第四條ニ掲クル船舶ハ其地方廳）ニ差出スヘシ

第十六條　船舶檢査ノ方法及ヒ細目ハ管船局發行ノ檢査手續書ニ據ルヘシ

（書式畧ス）

（一〇一）專賣特許條例　明治十八年四月第七號布告

專賣特許條例別冊ノ通制定シ明治十八年七月一日ヨリ施行ス

但明治四年四月七日布告專賣略規則及明治五年三月第百五號布告ハ廢止ス

（別冊）

專賣特許條例

第一條　有益ノ事物ヲ發明シテ之ヲ專賣セントスル者ハ農商務卿ニ願出其特許ヲ受クヘシ

第二條　專賣特許ヲ願出ルニハ其願書ニ發明ノ明細書幷必要ノ圖面ヲ添フヘシ但時宜ニ依リ其現品又ハ雛形ヲ差出サシムルコトアルヘシ

第三條　專賣特許ノ年限ハ專賣特許證ノ日附ヨリ起算シ十五年ヲ超ユルコトヲ得ス

第四條　左ノ諸項ニ觸ルヽモノハ專賣特許ヲ願出ルコトヲ得ス

一　他人ノ既ニ發明シタルモノ

但他人ヨリ讓受ケタルモノハ此限ニアラス

二　專賣特許願出以前公ニ用ヒラレ又ハ公ニ知ラレタルモノ

三　治安、風俗、健康ヲ害スヘキモノ

四　醫藥

第五條　軍用ニ必要ナリト認メ又ハ廣ク用ヒシムルコトヲ必要ナリト認ムル發明ニハ農商務卿ニ於テ專賣特許ヲ與ヘス又ハ既ニ與ヘタルモノト雖モ之ヲ取消スコトアルヘシ

前項ノ場合ニ於テハ農商務卿ニ於テ相當ト認ムル報酬金ヲ其發明者ニ下付スヘシ

第六條　專賣特許ヲ願出ルノ權及專賣ノ權ハ相續者ニ傳ハルヘキモノトス

相續者ニ於テ專賣ノ權ヲ相續シタルトキハ三ケ月以內ニ農商務省ニ屆出ヘシ

第七條　專賣ノ權ヲ他人ニ讓與又ハ分與セントスルトキハ農商務卿ニ願出ヘシ

第八條　專賣人其發明ヲ改良シタルトキハ追加專賣特許ヲ願出ルコトヲ得但追加特許ハ原專賣特許ノ年限ヲ超ユルコトヲ得ス

第九條　專賣人ノ發明ヲ改良シテ專賣特許ヲ得ントスル者ハ專賣人ノ承諾ヲ經ヘシ

專賣人其承諾ヲ拒ミ農商務卿ニ於テ改良ニ妨アリト認ムルトキハ其發明ヲ改良ノ部分ト合セテ使用スルノ特許ヲ改良者ニ與フルコトアルヘシ

前項ノ場合ニ於テハ農商務卿ニ於テ相當ト認ムル報酬金ヲ改良者ヨリ專賣人ニ與ヘシムヘシ

第十條　專賣人ハ其發明品ニ專賣特許證ノ年月日及年限ヲ標記スヘシ品柄ニ由リ標記スルコトヲ得サルモノハ其上包等ニ標記スヘシ

第十一條　專賣人ノ名簿及發明ノ明細書圖面等ハ農商務省ニ於テ衆庶ノ觀覽ニ供スヘシ

第十二條　專賣人轉籍轉居又ハ氏名ヲ變換シタルトキハ三ケ月以內ニ農商務省ニ屆出ヘシ

第十三條　專賣特許證ヲ毀損遺失シタルトキハ其再渡ヲ農商務卿ニ願出ヘシ

第十四條　左ノ場合ニ於テハ專賣特許無効ニ歸シ其特許證ヲ返納セシムヘシ

一　第四條ノ諸項ニ觸レタルコトヲ發見シタルトキ

二　願書幷明細書圖面等ニ相違ノ事實アルコトヲ發見シタルトキ

第十五條　左ノ場合ニ於テハ專賣ノ權ヲ失フ

六條參看

(廢)一〇、一ノ一、一四、二五條參看

(刪)六〇、八ノ一〇、(廢)一〇、一ノ一、一三、七、八、一三條參看

一　專賣特許證ノ日附ヨリ二年ヲ經テ其發明ヲ實施公行セス又ハ事故ヲ屆出スシテ二年間之ヲ中止シタルトキ

二　專賣特許ノ發明品ヲ外國ヨリ輸入シテ之ヲ販賣シタルトキ

第十六條　專賣特許證ヲ下附シタルトキ及專賣特許無効ニ歸シタルトキ又ハ專賣ノ權ヲ失ヒタル者アルトキハ農商務省ヨリ之ヲ廣告スヘシ

第十七條　專賣特許ニ係ル願書ニハ左ノ區別ニ從ヒ證劵印紙ヲ貼用スヘシ（明治二十年勅令第八號ヲ以テ本條改正）

一　專賣特許、追加特許　金三圓

二　專賣權ノ讓與分與　金五圓

三　專賣特許證ノ再渡　金壹圓

專賣特許證ヲ受クル者ハ左ノ區別ニ從ヒ專賣特許料ヲ納ムヘシ

一　五年ノ專賣特許　金拾圓

二　十年ノ專賣特許　金拾五圓

三　十五年ノ專賣特許　金貳拾圓

（第十七條　專賣特許ヲ願出ル者ハ左ノ免許料ヲ納ムヘシ但願書ヲ却下スルトキハ之ヲ返付スヘシ

一　五年ノ專賣特許ヲ願出ル者　金拾圓

二　十年ノ專賣特許ヲ願出ル者　金拾五圓

(廢)一〇、一ノ一、二條參看

(廢)一〇、一ノ一條參看

(刪)六〇、九、六一、(廢)一〇、六、一二、一ノ一、二、三、三、三、二六、二七條參看

(廢)一〇、一ノ一、二、三、二三、二六、二七條參看

(廢)一〇、一ノ二、三、二六、二七條參看

(刪)六〇、九(廢)一〇、一ノ一、二、二六條參看

三　十五年ノ專賣特許ヲ願出ル者　金貳拾圓

四　讓與分與ヲ願出ル者　金五圓

五　追加特許ヲ願出ル者　金五圓

六　賣賣特許證ノ再渡ヲ願出ル者　金壹圓

第十八條　專賣特許ノ事務ニ關スル官吏ハ專賣特許ヲ願出ルコトヲ得ス

第十九條　專賣人其專賣權ヲ侵サレタルトキハ之ヲ告訴シ幷要償ノ訴ヲ爲スコトヲ得但第十條ノ標記ヲ爲サヽルトキハ要償ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス

第二十條　專賣特許ノ發明品ヲ僞造シ若クハ外國ヨリ輸入シ又ハ專賣特許ノ方法ヲ竊用シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二十一條　專賣特許ノ機械又ハ方法ヲ以テ製造シタル物品ト同一種類ノ物品ニ專賣人ノ記號ニ紛ラハシキ記號ヲ用ヒタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二十二條　第二十條第二十一條ノ犯罪ニ係ル物品ヲ情ヲ知テ販賣シタル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條　第二十條第二十一條第二十二條ノ場合ニ於テハ其物品及犯罪ノ用ニ供シタル物件ヲ沒收シテ專賣人ニ給付シ其既ニ賣捌キタルモノハ代價ヲ追徵シテ之ヲ給付ス

第二十四條　詐僞ノ所爲ヲ以テ專賣特許ヲ受ケ又ハ專賣特許ヲ僞稱シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二十五條　第六條第二項第十二條ノ届出ヲ其期限内ニ爲サヽル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十六條　此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十七條　第二十條第二十一條第二十二條ノ犯罪ハ專賣人ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第二十八條　專賣人告訴ヲ爲シタルトキハ裁判官ニ於テ假ニ其告訴ニ係ル物品ノ發賣ヲ停止スルコトヲ得

附則

明治四年四月七日專賣略規則布告以後本條例布告以前ニ發明シ明治五年三月第百五號布告但書ニ依リ届出タル事物ニシテ之ヲ專賣セント欲スル者ハ公ニ用ヒラレ公ニ知ラレタルモノト雖モ本條例施行ノ日ヨリ六ケ月間ニ其專賣特許ヲ農商務卿ニ願出ルコトヲ得

本條例布告以前既ニ前項ノ發明ヲ使用シタル者ハ本條例施行ノ日ヨリ一ケ年間ニ其使用特許ヲ農商務卿ニ願出ルコトヲ得此場合ニ於テハ本條例第十七條專賣特許ノ免許料ト同一ノ金額ヲ納ムヘシ

參照

○關係法令

六〇八　太政官第五號布達　明治十八年四月

今般專賣特許條例制定候ニ付專賣特許手續別紙ノ通相定ム

（別紙）

專賣特許手續

第一條　專賣特許ニ關スル願書及届書ハ總テ地方廳ヲ經テ農商務省ニ差出スヘシ

第二條　專賣特許ヲ願出ルトキハ一箇ノ發明ニ付願書明細書並圖面各一通ヲ差出スヘシ（明治二十年農商務省令第一號ヲ以テ本條改正）

第三條　明細書及圖面ハ願人ヨリ封緘シテ之ヲ差出シ地方廳ハ封緘ノ儘之ヲ農商務省ニ進達スヘシ

第四條　專賣特許願書ニハ左ノ諸件ヲ記載スヘシ

一　發明ノ名稱

二　專賣特許ノ年限

三　條例ニ抵觸セサル旨

四　願書明細書等ニ相違ノ事實ナキ旨

第五條　明細書ニハ左ノ諸件ヲ記載スヘシ

一　發明ノ目的及性質ノ大體説明

二　圖面ノ解説（圖面ヲ添フルトキハ）

三　發明ノ製作、搆造、組成、及使用ノ方法等ニ關スル詳細ノ説明

四　發明ノ區域

五　發明人ノ族籍住所氏名

第六條　圖面ニハ一圖毎ニ番號ヲ記シ其各部ニハ片假名平假名又ハ數字ヲ付シテ明細書ノ說明ト符合セシメ且發明人ノ氏名ヲ記載スヘシ（明治二十年農商務省令第一號ヲ以テ本條改正）

第七條　條例第七條ニ依リ專賣權ノ讓與又ハ分與ヲ願出ルトキハ讓主ヨリ願書一通ニ約定書本書ヲ添ヘテ差出スヘシ

其登錄ヲ經タルトキハ約定書本書ニ登錄濟ノ證印ヲ捺シ之ヲ下付スヘシ（明治二十年農商務省令第一號ヲ以テ本條改正）

第八條　條例第八條ニ依リ追加專賣特許ヲ願出ル者ハ第二條及第三條ノ手續ニ從フヘシ

第九條　條例第九條第二項ノ特許ヲ受ケント欲スル者ハ其理由ヲ詳記シタル願書一通ヲ差出スヘシ（明治二十年農商務省令第一號ヲ以テ二通トアルヲ一通ト改ム）

第十條　專賣特許又ハ追加特許ヲ受クル者ハ其出願ヲ聞屆ヘキ旨ノ通知ヲ得タル日ヨリ三十日以內ニ其特許料ヲ納ムヘシ此期限內ニ特許料ヲ納メサルトキハ其出願無効タルヘシ但已ヲ得サル事由アリテ延期シタルモノト認ムルトキハ此限ニアラス（明治二十年農商務省令第一號ヲ以テ本條改正）

第十一條　條例第十三條ニ依リ專賣特許證ノ再渡ヲ願出ルトキハ其理由ヲ詳記シタル願書一通ヲ差出スヘシ（明治二十年農商務省令第一號ヲ以テ本條改正）

第十二條　專賣特許ヲ受ケタル者其願書明細書等ニ脫漏又ハ過誤アルコトヲ發見シテ之ヲ補足又ハ改正セント欲スルトキハ其理由ヲ詳記シタル願書一通ヲ差出スヘシ（明治二十年農商務省令第一號ヲ以テ二通トアルヲ一通ト改ム）

但其補足又ハ改正ノ爲メ發明ノ重要事項ニ變更ヲ生スルモノハ之ヲ願出ルコトヲ得ス

第十三條　專賣特許ヲ受ケタル者約束ヲ以テ他人ニ其發明ヲ使用セシムルトキハ雙方連署シテ之ヲ屆出ヘシ

第十四條　條例第四條第一項ニ觸レ專賣特許無効ニ歸シタル後先發明者更ニ專賣特許ヲ願出ルトキハ其年限ハ前專賣人ノ特許年限ヲ超ユヘカラス

第十五條　專賣特許願書ノ訂正ニ關シ達ヲ受ケタルトキハ其日附ヨリ三箇月以內ニ明細書ニ關シ達ヲ受ケタルトキハ其日附ヨリ十五日以內ニ圖面ノ微收又ハ訂正ニ關シ達ヲ受ケタルトキハ其日附ヨリ三箇月以內ニ明細書ニ關シ達ヲ受ケタルトキハ其日附ヨリ六箇月以內ニ訂正書圖面又ハ答辨書ヲ出スヘシ此期限內ニ之ヲ出サヽルトキハ其出願無効タルヘシ但已ヲ得サル事由アリテ延期シタルモノト認ムルトキハ此限ニアラス（明治二十年農商務省令第一號ヲ以テ本條改正）

第十六條　專賣特許ニ關スル諸願書式明細書及圖面ノ雛形用紙等ハ別ニ告示スヘシ（明治二十年農商務省令第一號ヲ以テ本條追加）

○伺指令

六〇九　埼玉縣伺　明治十八年四月廿七日

今般第七號御布告專賣特許條例及第五號御布達專賣特許手續條項中疑義ノ廉左ニ一條例第五條中ニ又ハ廣ク用ヰシムルコトヲ必要ナリト認ムル發明ニハ農商務卿ニ於テ專賣特許ヲ與ヘス云々

ト有之右ハ軍用品ノミニ限ラス諸般ノ物件ニシテ社會公益ノ最モ大ナルモノト公認セラルヽモ惟リ發明者ニ專賣權ヲ附與スルトキハ却テ之カ擴充ヲ妨クルノ恐レナキ能ハサルヲ以テ發明者ニハ相當ノ報酬金ヲ與ヘラレ而シテ該發明品ハ何人ヲ問ハス製造販賣勝手タラシムヘキ御仕向ニ候哉

二同第八條但書ニ追加特許ハ原專賣特許ノ年限ヲ超ユルコトヲ得ストアルハ譬ヘハ其物件ニ改良ヲ加ヘテ追加專賣特許ヲ願出ル時ハ其追加特許ノ日付ケヨリ起算シテ更ニ向フ何年原特許五年ナレハ追加特許モ五年同十年十五年ナレハ追加モ亦十年十五年ノ特許ヲ得テ既ニ十年ヲ經過セシ後改良ヲ加ヘ追加ヲ願出ルトキハ幾リ五年丈ケノ特許ニシテ其以上ヲ超ユルコトヲ得サルノ意ニ候哉

三同第十五條其二項ニ專賣特許ノ發明品ヲ外國ヨリ輸入シテ之ヲ販賣云々トアルハ譬ヘハ何某ノ發明ヲ以テ專賣特許ヲ得タル物品ト同一ノ物品外國ニ發明者アリテ齊シク其政府ノ專賣特許ヲ得テ本邦ニ齎シ來リテ之ヲ販賣スル者アルトキハ右何某ノ專賣權ハヲノツカラ消滅ストノ意ニ候ヤ又ハ專賣特許ヲ得シ發明品ヲ自カラ外國ニ遣リテ製造セシメ之ヲ輸入シテ販賣セシコトノ發覺シタル時專賣ノ權ヲ剝奪セラルヽトノ意ニ有之候哉

四同第二十條ニ專賣特許ノ發明品ヲ僞造シ若クハ外國ヨリ輸入シ又ハ專賣特許ノ方法ヲ竊用シタル者ハ云々ト有之右發明品ヲ僞造ストハ他人ノ專賣特許ヲ得タル發明品ヲ摸造シテ之ニ發明者ノ姓名及ヒ特許ノ年月日年限等ヲ標記シタルモノヽ謂ヒニシテ外國ヨリ輸入ストハ他人ノ專賣特許ヲ受ケタル發明品ヲ竊カニ外國ニ遣リテ造ラシメ之ヲ輸入販賣シ或ハ其輸入品ヲ摸施トシテ製造販賣シ一方ヨリ專賣權ヲ侵サレタリトシテ告訴スルモノアルモ外國品摸造ノ口實ヲ以テスルカ如キ故意ノ者ヲ指ス義ニ候ヤ將タ方法ヲ竊用ストハ例ヘハ專賣特許ヲ得タル發明品圓形ナレハ方形ニシ木製ナレハ鐵製ニシテ形容ヲ殊ニスルマテニテ其實右發明者ノ考按意匠ヲ全用シタル者ヲ指ス義ニ有之候哉

五同第二十四條ニ詐僞ノ所爲ヲ以テ專賣特許ヲ受ケ又ハ專賣特許ヲ僞稱シタル者ハ云々ト有之右詐僞ノ所爲云々トハ條例第二十條ノ事項ト類似ノ故意脳瞞ヲ以テ既ニ特許ヲ受タルモノヽ謂ヒニシテ僞稱云々トハ專賣特許ヲ得スシテ特許ノ名ヲ密用スルヲ指ス義ニ有之候哉

六手續第十三條ニ專賣特許ヲ受タルモノ約束ヲ以テ他人ニ其發明ヲ使用セシムルトキハ雙方連署シテ之ヲ屆出ヘシトアルハ專賣權ヲ有スルモノ自己ノ都合ニ依リ讓與分與ノ手續ニ依ラス特許年限中若干年間若クハ全期他人ヲシテ之ヲ製造及販賣セシムルコトヲ爲シ得ラルヽトノ意ニ有之候哉

農商務省指令 明治十八年五月二日

伺ノ趣左ノ通可相心得事

一 見解ノ通

二 後段見解ノ通

三 專賣人自ヲ輸入シテ販賣スル場合ヲ指スモノトス

四 前二段見解ノ通後段ハ專賣特許ヲ得タル製造方法ノ如キ工術ヲ竊用シタルモノヲ指スモノトス

五 見解ノ通

六 見解ノ通

○

六一〇 愛媛縣伺 明治十八年十一月十日

甲者既ニ專賣ノ特許ヲ得タル發明品ニシテ乙者之ヲ摸造シ已レ一人ノ使用ニ供シ候儀ハ法律上ニ於テ差支無之候哉又ハ假令一己ノ用ニ供スルモ之ヲ摸造スル時ハ專賣條例第二十條專賣特許ノ發明品ヲ僞造シタル廉ニ依リ處斷可相成儀ニ候哉

農商務省指令 明治十八年十一月廿五日

伺之趣後段見解ノ通可相心得事

○判決例

六一一 明治二十年乙第八百三十一號

鹿兒島縣士族 松田經智

治罪法第百四十六條第二項被告人ノ白狀官吏ノ檢證調書證據物件證人ノ陳述云々其他諸般ノ徵憑ハ裁判官ノ判定ニ任ストアレハ採證并事實ノ判定ハ承審判官ノ特有職權ニシテ他ノ證ニ論難スヘキモノニアラス然ルニ本件上告書題并代言人カ擅恨論旨タル前掲ノ如ク橘成彦カ專賣特許ニ係ル一本卷器械ハ其世ニ公ニナリシヤ又標示ヲ付シアリタルヤ及ニ本卷器械ハ一個ノ發明若クハ改良ト爲スヘキカ將タ模造ト認メ得ルヤ否等ニ就キ原裁判言渡ニ對シ頗リニ辨難ヲ試ムト雖モ原判官ハ其判文ニ明示セル證據徵憑ニ心證ヲ資リ被告カ使用セシ鏈付一本卷器械ハ元來鹿兒島縣授產場ニテ用ユル所ノ東京府士族橘成彦カ專賣特許ニ係ル器械ナルニ即チ被告ハ明治十九年十一月六日授產場ニ至リ該器械ヲ以テ卷煙草ヲ製造スルノ實況ヲ熟視シ茲ニ於テ模造豫用セント企圖シ因テ該器械製造ヲ受負ヒタル薄井龍八ニ其情ヲ明カシテ見本ヲ模造セシメ仍ホ山下武二ニ該器械數個ヲ作ラシメ而シテ內六臺ハ二本卷器械ナルモ精局電本卷鏈付ノ方法ヲ模造シ之ヲ二本卷トナシ窃ニ使用云々ト其事實ヲ判定シアリテ事實ノ理由ニ不備ノ廉ナキハ勿論條例第二十條ハ苟クモ他人專賣特許ノ發明品ヲ僞造シ若クハ其方法ヲ窃用シタルモノハ直ニ犯罪ヲ構成シ同條末項ニ據リ處斷スヘキノ律意ナレハ販賣又ハ賃貸ヲ爲サヽルヲ以テ該罪ヲ組成セストハ云フヲ得サルモノニ付原判官ハ本案一本卷器械ハ成彦カ專賣特許ニ係ルモノヲ模造シ又二本卷ハ一本卷鏈付ノ方法ヲ模造シ共ニ窃用セシモノトナシ相當ノ刑ヲ科シタルモノナレハ越權若クハ擬律ニ錯誤アリトモ爲スヿヲ得ス而シテ該二個ノ器械タルヤ只タ一本卷ト二本卷ノ別アルモ畢竟同一模造品ト認メ處斷シタルモノナレハ眼ヲ受ケサル事件ニ對シ判決ヲ與ヘタリトハ爲シ得サルノミナラス之ヲ改良品ナリト云フヲ得ス況ヤ公判始末書等ニ照徵スルニ二本卷器械ノ點ニ付テハ現ニ公所アリタル事明カナルニ於テヲヤ又專賣特許ヲ得タル物品ハ其當時農商務省ノ告知アルハ勿論原裁判官ニ於テ橘成彦カ專賣特許ニ係ル器械ヲ熟視シト認メアレハ其情ヲ知ラスシテ犯シタル所爲ナリト云フヲ得ス且ツ他ニ充分ナル證據徵憑アル場合ニ在テハ農商務省ノ查定ヲ要スヘキノ法條ナキカヲハ該者ノ查定ヲ受ケスト云フノ廉ヲ以テ漫ニ原判官ノ心證判斷ヲ左右シ得ルモノニアラストス以上說明スル如ク上告旨趣并代言人カ擅恨論旨ハ要スルニ法律ノ解釋ヲ誤リタルト原判官カ職權ヲ以テ爲シタル探證并事實判定ノ當否ヲ非難スルニ過キスシテ上告適法ノ原由ハ之レナキモノト判定ス因テ治罪法第四百二十七條ニ則リ之ヲ棄却スルモノナリ

明治二十年十二月十九日

(一〇二)船燈信號器製造販賣規則

明治十九年七月 號信省令第十九號

船燈信號器製造販賣規則左ノ通定ム

但明治十四年農商務省甲第四號布達ハ廢止ス

船燈信號器製造販賣規則

第一條　船燈(檣燈 舷燈)發火信號器(火ヲ發スル櫓燈或ハ火箭信號 焰管彈)ヲ製造セントスル者ハ其管轄廳ヲ經テ製造品ノ見本ヲ差出シ遞信省ノ許可ヲ乞フトキハ製造人又ハ代理人各種共十箇以上ノ見本ヲ携帶シテ遞信省ノ試驗ヲ受クヘシ但試驗入費ハ出願人ヲシテ負擔セシム

第二條　發火信號器ノ許可ヲ受クヘシ

第三條　遞信省ハ船燈、發火信號器ノ見本ヲ合格ト見認ムルトキハ管轄廳ヲ經テ製造免許證ヲ下付スヘシ

第四條　免許製造ノ船燈、發火信號器ニハ其製造人ノ氏名ヲ彫刻又ハ貼付スヘシ

第五條　免許製造ノ船燈、發火信號器ヲ販賣セントスル者ハ其管轄廳ノ許可ヲ受クヘシ但免許製造人ニ於テ販賣スルハ此限ニアラス

第六條　船燈、發火信號器ノ製造又ハ販賣免許ヲ受ケタル者ハ各其氏名製造所又ハ販賣所名ヲ新聞紙ニテ廣告シ且ツ其製造所、販賣所ニハ看板ヲ掲クヘシ

第七條　免許製造人其籍ヲ轉シ若クハ氏名ヲ變スルトキハ管轄廳ヲ經テ免許證ノ書換ヲ願

(第三七、八、五、九、五、一〇、二ノ二、三、三五條 第六、一二ノ一條參看)
(第一一、一〇、二ノ一、三、二、一〇、二ノ一條參看)
(第一一、一〇、二ノ一、二、四、五、六、七、八、九條參看)
(第一一、一〇、二ノ三、五、二、二條參看 明六、一二ノ一條)
(第一一、一〇、二ノ一、三、四、六、八、九、一一、一二、一三條參看)
(第一一、一〇、二ノ三、五條參看)
(第一一、一〇、二ノ三條參看)

出ッヘシ但其廢業死亡ノ時ハ免許證ヲ返納スヘシ

第八條　船燈發火信號器製造人ノ員數ハ遞信省ニ於テ之レヲ制限ス其販賣人ノ員數ハ地方ノ實況ニ應シ管轄廳ニ於テ之ヲ增減スルヲ得ヘシ

第九條　遞信省又ハ地方廳ニ於テハ免許製造所及ヒ販賣所ヘ不時ニ吏員ヲ派出シ其製造ノ適否ヲ監査シ場合ニ依リ之ヲ實試スルコトアルヘシ

第十條　不合格ノ製器ハ監査官吏ニ於テ其改造ヲ命シ或ハ販賣若クハ使用ヲ停止スルコトアルヘシ

第十一條　不合格ノ船燈發火信號器ヲ製造又ハ販賣スル者アルトキハ遞信省又ハ地方廳ニ於テ其營業ヲ停止若クハ禁止スルコトアルヘシ

第十二條　第四條第五條ヲ犯スモノハ五拾錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

●參照

○關係法令

[六一二]遞信省訓令第一號　明治二十年二月

明治十八年四月農商務省第十一號遞船燈監査手續概目ヲ廢止シ船燈信號器監査手續左ノ通定ム

船燈信號器監査手續

第一條　船燈信號器ノ監査ハ所轄廳ノ官吏ヲシテ船燈發火信號器製造所販賣所及繫

泊ノ船舶ニ就テ施行セシムヘシ

但西洋形船舶檢査規則ニ據リ檢査スヘキ船舶及甲板ナキ漁船小舟ハ此限ニアラス

第二條　監査官吏ハ船燈信號器製造販賣規則第九條ニ從ヒ製器ノ適否ヲ監査シ合格ノ船燈ニハ其廳名アル檢印（檣燈ハ側面　舷燈ハ前面）ヲ銘シ不合格ノ船燈發火信號器ハ該規則第十條第十一條ニ據リ處分スヘシ

第三條　繫泊ノ船舶ハ船籍ノ自他ニ拘ハラス定時（四月十月）又ハ臨時之ヲ監査シ甲號書式ニ從ヒ監査證書ヲ下付スヘシ

第四條　無檢印ノ船燈ヲ所持スルモノ其購入ノ年月監査手續施行以後ニ係ルトキハ之ヲ製造及販賣セシモノヽ住所氏名ヲ取糺シ遞信省ニ報告スヘシ

第五條　製造人ノ確證ナキ發火信號器ヲ所持スルモノアルトキハ製器ノ適否ニ拘ハラス其確證アルモノト更換セシムヘシ

第六條　號角號鐘ノ尺度ハ本年當省告示第八號ニ據リ其音響ノ充分ニ達スルモノヲ要スヘシ

第七條　監査證書ハ第一回ヨリ第五回目ノ監査ヲ了ル迄ハ各地方ヲ通シ該證書欄內ニ其都度監査官吏加書押印シ參照ノ便ニ供スヘシ

第八條　每回監査ヲ了リタル上ハ乙丙號書式ノ監査表ヲ製シ一箇年兩度（六月十二月）ニ取纒メ遞信省ニ報告スヘシ

第九條　製造人販賣人ノ住所氏名ハ廳府縣ヨリ官報ニ掲載スヘシ
但人員增減改名轉籍等其都度本項ニ據ルヘシ
第十條　船燈信號器犯則ノ處分ニ係ルモノハ其事實ヲ詳記シテ遞信省ニ屆出ヘシ
第十一條　監査官吏ハ船長若クハ重立タル海員ニ向ツテ海上衝突豫防規則ノ要件ヲ尋問シ若シ通曉セサル者アレハ懲篤ニ敎示スヘシ
但船燈、隔板、碇泊燈、火箭、焰管、號角、號鐘、信號旗ノ裝置若クハ使用ヲ熟知セサルモノアレハ懲篤ニ之ヲ指示スヘシ
第十二條　前數條ニ基キ地方ノ便宜ニ依リ別ニ細目ヲ設クルトキハ遞信省ニ屆出ヘシ
（書式略ス）

（十七七頁四一九ノ三七頁四六八六一三参照）

◎スノ部

（一〇三）酢元用酒類製造規則　明治十六年十二月第二十二號布告

酢造營業者酢元ニ供スル爲メ酒類ヲ製造スル者ハ酒造稅則中第三條免許稅第四條第二項第三項ヲ除クノ外該稅則ニ準據スヘシ

第一項ニ從ヒ酒類ヲ製造スル者酒類ヲ販賣シ又ハ檢査未濟ノ酒類ヲ以テ酢ヲ製造スルヲ許サス犯ス者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ現在ノ酒類及ヒ酢ヲ沒收ス其已ニ賣捌キタル者ハ代價ヲ追徵ス

第一項ニ從ヒ酒類ヲ製造スル者酢製成ノ上ハ管轄廳ニ屆出ヘシ違フ者ハ壹圓以上壹圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

●参照

○伺指令

六一三　京都府伺　明治十七年一月廿九日

第一條　酢造營業者酢元ニ供スル爲メ酒類ヲ製造スル者ハ酒造場一ヶ所毎ニ免許鑑札ヲ下付スヘキ儀ニ有之哉
乘テ然ラハ該鑑札ハ府縣ニ於テ國稅徵收費ノ內ヲ以テ調製シ下付シ可然哉
第二條　前條酒類造石稅ハ第一類相當課稅シ可然哉
第三條　酢元ニ供スル酒類製造スル者酢製成ノ上屆出シハ閲覽候迄ニシテ其石數ノ檢査ヲ要スルニ不及儀ト相心得可然哉
第四條　酒造營業人ヨリ檢査濟府改酒造石稅免除買入酢元酒類ニ活用スル場合ニ於テハ其石數ヲ查定シ課稅致シ可然哉

大藏省指令　明治十七年二月十三日

第一條　前段申出ノ通後段鑑札ノ儀ハ酒造免許鑑札ニ酢元用ノ三字ヲ冠ラセ下付スヘシ
第二條　酒造稅則第二條中ノ各類別ニ據リ課稅スヘシ
第三條　申出ノ通
第四條　課稅ノ限ニアラス
但其府改酒ヲ燒酎等ニ變製シテ酢造元ニ供スルモノハ此限ニアラス

（一〇四）漉入紙製造取締規則　明治二十年七月勅令第三十六號

漉入紙製造取締規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

漉入紙製造取締規則

第一條　文字畫紋ヲ漉入シタル紙ヲ製造スル者ハ現品ノ見本ヲ添ヘ管轄廳東京府ハ警視廳ニ届出ヘシ逃フ者ハ壹圓以上壹圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二條　紙幣兌換銀行券公債證書大藏省證券其他政府發行ノ證券ニ類似ノ文字畫紋又ハ凸ニ文字畫紋ヲ漉入レタル紙ヲ人民ニ於テ製造スルコトヲ禁ス違フ者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三條　此規則ハ本年九月一日ヨリ施行ス

參照

○關係法令

六一四　大藏省令第十二號　明治二十年八月

文字畫紋ヲ漉入レタル紙ヲ製造スル者ハ一種毎ニ現品二葉ヲ添ヘ左ノ雛形ニ據リ屆書二通ヲ管轄廳東京府ハ警視廳ハ一通ヲ留メ置キ一通ヲ當省ニ遞送スルモノトス

（雛形略ス）

舊令參照罰則全書畢

版權登錄

明治廿二年一月十八日印刷幷出版

（定價金二圓五十錢）

著作者　東京府士族　篠本榮

芝區葺手町三番地

印刷兼發行者　兵庫縣士族　長尾景弼

芝區三田壹丁目三拾六番地寄留

發行所

東京銀座四丁目　博聞本社

大坂備後町四丁目　博聞分社

千葉縣下千葉町　博聞分社

埼玉縣下浦和驛　博聞分社

福岡縣下博多中島町　博聞分社

版權所有

7N50

大販賣所

尾州名古屋本町	岸野東四郎
駿州靜岡江川町	廣瀨文林堂
信州長野町	西澤喜太郎
福島縣福島	石川支店
陸前仙臺大町	木村文助
函館末廣町	魁文社
越後長岡	目黑十郎
加州金澤	牧野一平
伊豫松山濱町	土肥與平
備前岡山	森禎藏
藝州廣島大手通一丁目	早速社
肥後熊本	長崎次郎
薩州鹿兒島六日町通中町	吉田幸兵衛

販賣所

東京日本橋通三丁目	丸善書店
東京南傳馬町壹丁目	近江屋半七
東京神田表神保町	中西屋太郎
東京神田南神保町	須原鐵二
東京神田錦町三丁目	時習社
東京神田裏神保町	明法堂
東京神田小川町	集成社
西京東洞院三條上ル	村上勘兵衛
西京祇光寺通高丸東ヘ入ル	東枝吉兵衛
西京河原町通	大黑屋太郎右衛門
西京寺町通五條上ル	飯田信文堂
大阪本町四丁目	岡島眞七
大阪心齋橋通二丁目	松村九兵衛
大阪備後町四丁目	吉岡平助
横濱辨天通四丁目	丸善常藏店
肥前長崎引地町	鶴善書店
越後新潟古町通二番町	井筒野駒吉
濃州岐阜	三浦源助
紀州和歌山北町	津田源兵衛
越前福井照手上町	岡崎左喜助
備前岡山	細謹社
雲州松江本町	園山喜三右衛門
因州鳥取火ノ見下	前島榮次郎
阿州德島	阪井萬吉
陸奥弘前土手町	野崎九兵衛

036156-001-4

CZ-711-0152

罰則全書

笹本　栄蔵／編

前

M22, 24

BBP-0822